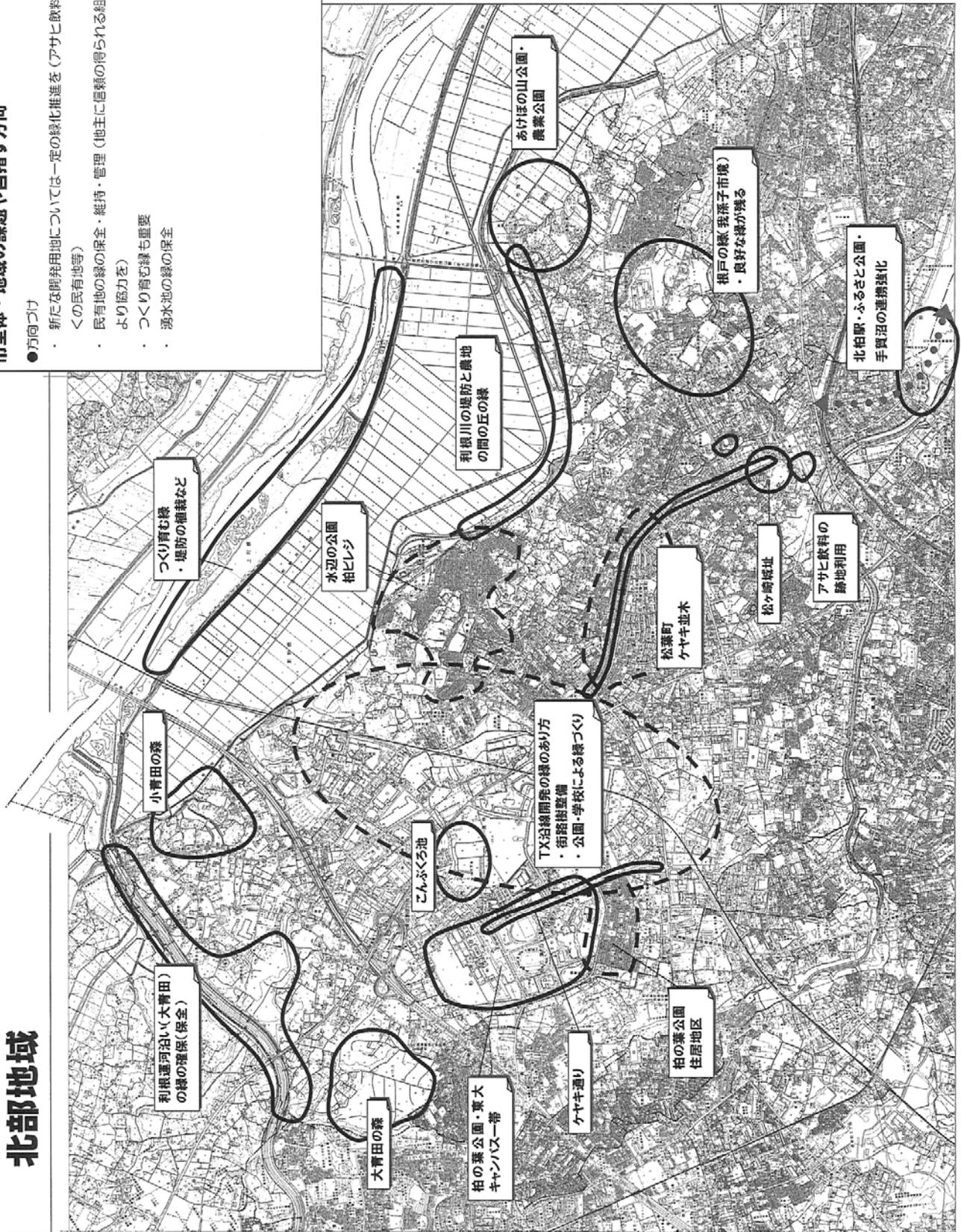


市全体・地域の課題や目指す方向

- 方向づけ
 - ・ 新たな開発用地については一定の緑化推進を(アサヒ飲料、大青田近くの民有地等)
 - ・ 民有地の緑の保全・維持・管理(地主に信頼の得られる組織の紹介により協力を)
 - ・ つくり育む緑も重要
 - ・ 湧水池の緑の保全

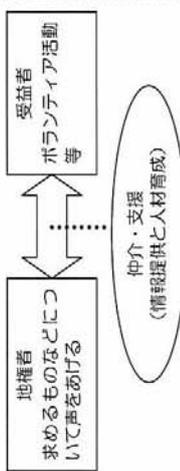
北部地域



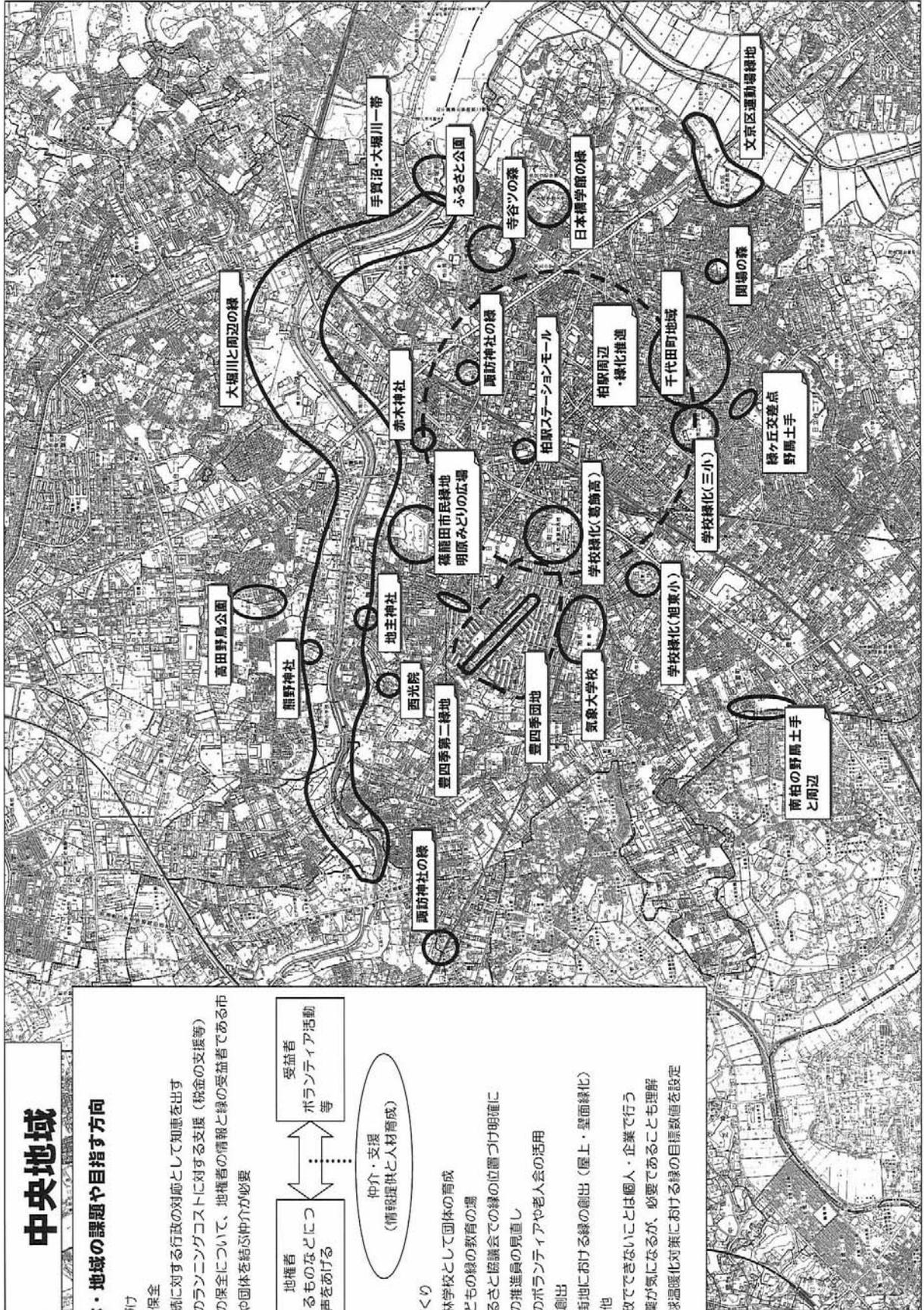
中央地域

市全体・地域の課題や目指す方向

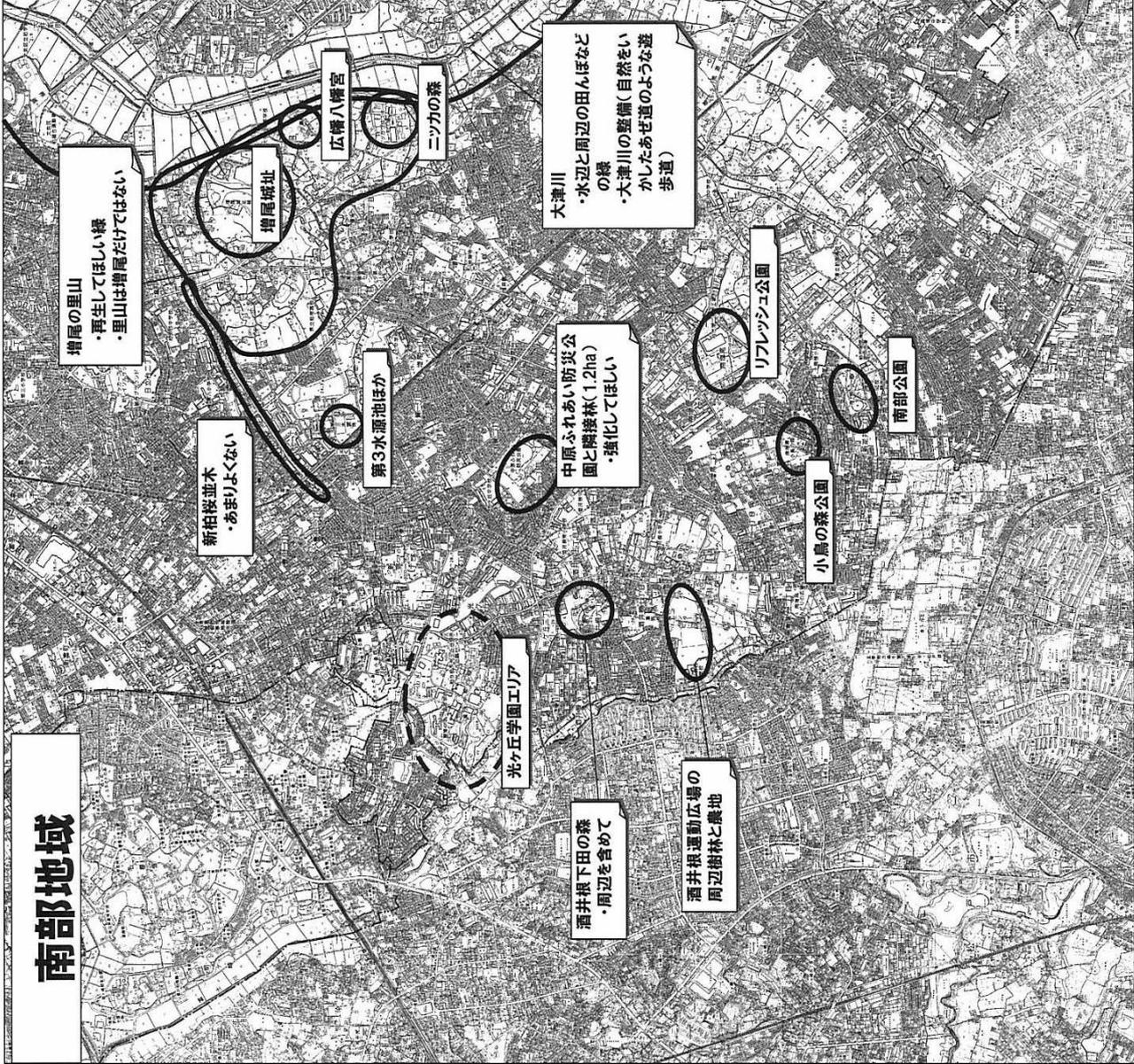
- 方向づけ
- 緑の保全
 - ・ 相談に対する行政の対応として知恵を出す
 - ・ 緑のランニングコストに対する支援（税金の支援等）
 - ・ 緑の保全について、地権者の情報と緑の受益者である市民や団体を結び紹介が必要



- 人づくり
 - ・ 森林学校として団体の育成
 - ・ 子どもの緑の教育の場
 - ・ ふるさと協議会での緑の位置づけ明確に
 - ・ 緑の推進員の見直し
 - ・ 緑のボランティアや老人会の活用
- 緑の創出
 - ・ 市街地における緑の創出（屋上・壁面緑化）
- その他
 - ・ 行政でできないことは個人・企業で行う
 - ・ 農業が気になるが、必要であることも理解
 - ・ 地球温暖化対策における緑の目標数値を設定



南部地域

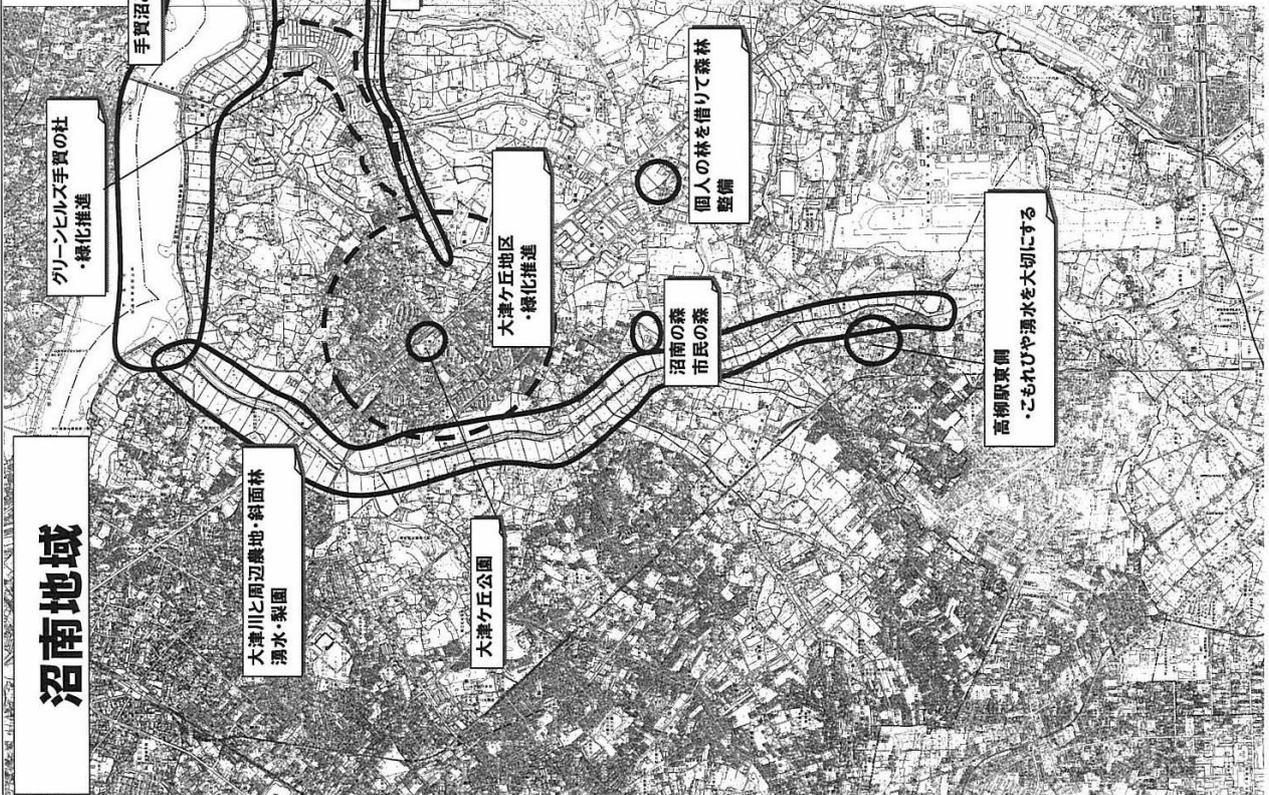


市全体・地域の課題や目指す方向

- 方向づけ
- 拠点の緑
 - ・ アンケートでの南部地域の緑の評価は低いが拠点が残されているのが特徴なので強化が必要
 - ・ とにかく守るという姿勢で
 - ・ 行政・市民・学校のかかわりの仕組みづくり
 - ・ 行政・市民・所有者…優先度づけを行い、守るもの守れないもの（開発が進んでいるところ、整備されているかどうか、どのような区分の緑か等）
 - ・ アクションプランでの優先度づけ
 - ・ メニューを提示
 - ・ 民有地の緑の保全・維持・管理（地主に信頼の得られる組織の紹介により協力を）
- 緑のとらえ方
 - ・ 都市空間として確保する緑と生物の生息環境としての緑
 - 樹林地の保全
 - ・ 相続税があるので売るしかないとき行政が市民が買う
 - ・ 担保性のない緑を守る
 - ・ 樹林地を保全する指標を示す
 - ・ モデルケースづくり（学校林としての利用）
 - 水辺
 - ・ 湧水に恵まれている（破壊が進んでいるが）ので再生に期待
 - ・ 水・湧水、歴史文化系も判断する
 - ・ 水と緑が大切一目を向けてもらえるように
- その他計画づくり全般
 - ・ 個人の家の緑づくりのための施策
 - ・ 学校との連携がどうできるか
 - ・ 前回の計画と同じまともめ方はよくない
 - ・ 計画の検証も必要



沼南地域



市全体・地域の課題や目指す方向

- 方向づけ
- 緑の将来像
 - ・「緑と人間の共生」をうまく図る
 - ・優良田圃都市構想は緑も残せるし、人も増やすことができる(手賀地区で検討されてきた)
- 緑の保全
 - ・今ある緑はできるだけ本来の形として残したい(大津川周辺等)
 - ・残せるものなら残したい、寄付できるものなら寄付したいというのが地権者の本当の気持ちである
 - ・保全するためには税(相続税)に足さる一独自のものを検討したい
 - ・手賀の丘公園は、相続に対して緑を保全するモデル的な手法であった
- その他
 - ・緑の二酸化炭素を吸収し、酸素を放出する機能をもっとアピールすべし

●市民懇談会 意見シートまとめ(第1回・第3回・第4回時に配布)

柏市緑の基本計画策定市民懇談会 意見シートまとめ—1(第1回懇談会時に配布)

1. お住まいの地域や市内の他の地域で、公園や緑について良いと思う事や自慢できること	2. お住まいの地域や市内の他の地域で、公園や緑について悪い事や他の市より劣ると思われること、改善すべきと考えること	3. 上記2に関して、その要因は何であると思いますか。また、どう改善しないし、対応したら良いと思われませんか。	4. お住まいの地域や市内の他の地域で、緑や水辺、公園について、今後(将来に亘って)こうあってほしいこと、大切にしたいこと	5. 居住している地域や柏市内で、緑の保全や緑化に関わりをもってたり、何か活動をされたりしている方は、具体的な内容を記入してください。	6. その他、市民懇談会について、ご意見・ご要望・ご提案・ご感想など
北部地域					
<ul style="list-style-type: none"> 柏の葉公園・東大キャンパスを中心とする地域は計画的で良い 花野井「水辺の公園」を中心とする地域は静かな憩いの場となっている 松葉町は都市公園(機構)の緑豊かな街づくりが成功した一例 特色ある公園として風車のある「あけぼの山公園」は四季を通して花を楽しむことができる。農業公園も親しみがある 「こんぶくろ池」を中心とした緑地は歴史的にも自然保護区としても価値の高い所である(ハンノキ・キツネノカミソリ・野蚕・ヒキガエル・ウシガエルなどが見られる大切な場所) 大堀川の「桜里親」の取り組みは年々素晴らしい成果をあげている これらを市の公園緑政課がすべて責任をもって守っていく大きなビジョンがあれば、北部地域にはかなり多くの緑が残される 	<ul style="list-style-type: none"> 放置林・放置広場・休耕農地・私有地内の放置街路樹・松くい線虫による害・放置空地等は個人的な土地であるが法的に所有者に指導・助言できるはずである 大利根有料道路から見ると水上バイクやオフロード車によって川や緑地がいためられている(柏側も取手側も) 手賀沼周辺の北柏ふるさと公園や文化会館周辺のように毎日、人が管理しているところはきれいだであるが、手賀沼周辺を大きく見るとゴミはひどい 日本の公園は芝が少ない。芝の多いことは緑地(緑化)としては大事(あけぼの山公園などは芝が多い) 	<ul style="list-style-type: none"> 良い所は公的な機関がなかり責任をもって管理しているが悪い所は私有地に多い。見えな所、見過ごしてしまっている所を柏市全体でリストアップする必要がある(緑の問題点マップのようなもの) 都市計画の段階でどれだけ緑地を確保できるか、国・県の基準以上に柏市緑地条件をつくるべきで、それをクリアできなければ都市開発をさせないように市に取り組んでほしい 川や沼の保護は緑の基本計画では生命線である。人々にもっと働きかけてモラルの向上を(手賀沼がワースト1を脱出できたのも市民の意識であるとアピールするなど) 	<ul style="list-style-type: none"> 文化的建築をしっかりした場所につくり、その周辺を緑地として保護する 文化的遺産とその周辺の緑の保護(松ヶ崎城など、あまりつすぎないこと。布施弁天を中心とした緑地の方がしっかり保護されている) 湧水池の保護(花野井・こんぶくろ池・宿蓮寺(でえだらぼつちの足跡)・豊四季・高田など自然の湧き水が多く残っている。これらの水は周辺の開発で消えそうである 芝を多くする(大堀川沿いの遊歩道(五中裏)など見事である。芝のしっかりした管理がされている公園は手入れと管理のしっかりされている公園である) 20年、30年先の緑を今から育てる計画である。北部地域は農家の保護も大切である 	<ul style="list-style-type: none"> あけぼの山農業公園の管理ボランティア(除草・球根掘り・梅林のレンガ埋め・フェスティバルの手伝い等) NACS-J(日本自然保護協会)会員(調査報告や統計協力、指導員の資格を取って観察会のガイド) 樹医として緑の相談や学校の総合的学習のゲストティーチャー 緑・花文化の知識認定1級 	<ul style="list-style-type: none"> もっと市民にPRすることで自分たちの意見や希望が少しでも生かされるということを知らせてあげたい。緑を守るということは市民の意識化が大切である。「広報かしわ」ももっと活用すべき 地球温暖化について話すべきで知らせる工夫をすべきである。緑の基本計画の大切な役割である 放置(放棄)する自然をいかに守るかが今後大切 市民懇談会や公園緑政課が学校や地域に出かけて行って出前授業や市民相談などアクティブな行動がとれると良い。東大院長も力になってもらおうと良い
<ul style="list-style-type: none"> あけぼの山公園・農業公園があり、市内でも最高の環境にある 利根川第1堤防・第2堤防が近接していて、はるかに富士山・日光男体山・筑波山が眺められ、雄大な自然を満喫できる 電線がない風景はなかなか見られないので、風揚げ・堤防でのジョギング・サイクリング等変化に富んでいる 			<ul style="list-style-type: none"> 公園と利根川の自然の組み合わせに一工夫がほしい(あけぼの山公園を起点として柏側堤防を野田方面に走り、守谷、茨城側堤防を経て大利根橋に至るコースなど、利根川の兩岸をまわられるサイクリングコースの設定) 	<ul style="list-style-type: none"> 地区ふるさと協議会環境部 ごみO運動 北柏ふるさと公園清掃 NPO法人で環境保全・整備 	
<ul style="list-style-type: none"> 松葉地区・柏ビレジ地区・柏の葉公園住居地区はバランス良く緑があり素晴らしい住宅である 	<ul style="list-style-type: none"> 大青田地区は市街化調整区域で樹林地が多く緑豊かであるが山林の手入れが行き届いておらず荒れており不法投棄の格好の場所となっている。行政はお手上げ状態で民間パワーにより里山復活に向けて徐々に努力している 	<ul style="list-style-type: none"> 粗大ゴミ(自動車・テレビ・冷蔵庫・自転車等)の投棄が多く対象地道路路肩にガードレールを設置することが望ましい(禁止看板では効果が薄い) ポイ捨てゴミについては地元クリーン作戦で改善できる 	<ul style="list-style-type: none"> 道路は草が茂りひどい有様でまちなかの景観を損ねている(特に調整区域)路側帯はグリーンベルトに雑草がいつばいで醜い場所が多くあり他都市と比べて見劣りする。市民も自分の家の前の管理は自分たちできれいにするという意識を高めていきたい 	<ul style="list-style-type: none"> 柏市里山の会(山林所有者が結束して昨年度より将来にわたり緑を保全していく目的で設立。里山復活に向けて県・国へ相続税に関する納税猶予ができるように法律改正を要望を提出) 	<ul style="list-style-type: none"> 都市化が進めば緑は減少していくのは当然であり、開発し優良宅地が多くなれば柏市の財政も潤い市民に対してもサービス向上につながる 懇談会では絶対開発反対を意識から取り除きその中でどうしたら緑を守っていくかを念頭に議論を進めていくべき 市街化区域内の緑地保全と市街化調整区域内の緑地保全の仕方は分けて議論する必要がある
<ul style="list-style-type: none"> 松葉町はバス通り(ケヤキ通り)を要として四季折々の花に囲まれ、春にメジロが訪れ満足している 			<ul style="list-style-type: none"> 現状の柏は都市化しているが奥まった場所にはまだ昔ながらの緑地や鎮守の杜、林が残っている 人と自然がともに生きること許された場所、里山を人間の息吹でどう守っていけばよいか(人と自然の共生の姿) 	<ul style="list-style-type: none"> NPO法人東京シティガイドクラブ 	<ul style="list-style-type: none"> 今一度緑に向き合う機会に恵まれたのでがんばっていきたい
<ul style="list-style-type: none"> メダカ、ザリガニ、おたまじゃくしが泳ぐ小川が残っている 	<ul style="list-style-type: none"> 空き缶、ゴミが落ちている点が気になる。ゴミ箱がないこととゴミの多 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの緑という意識が足りないので子供の頃から動機付けが必要 	<ul style="list-style-type: none"> 小さな公園、緑を残していきたい 		<ul style="list-style-type: none"> 何らかの形で市民からの提案が具体的に計画に反映されることを望む

1. お住まいの地域や市内の他の地域で、公園や緑について良いと思う事や自慢できること	2. お住まいの地域や市内の他の地域で、公園や緑について悪い事や他の市より劣ると思われること、改善すべきと考えること	3. 上記2に関して、その要因は何であると思いますか。また、どう改善ないし、対応したら良いと思われますか。	4. お住まいの地域や市内の他の地域で、緑や水辺、公園について、今後(将来に亘って)こうあってほしいこと、大切にしたいこと	5. 居住している地域や柏市内で、緑の保全や緑化に関わりをもっていたり、何か活動をされたりしている方は、具体的な内容を記入してください。	6. その他、市民懇談会について、ご意見・ご要望・ご提案・ご感想など
<ul style="list-style-type: none"> 近所には子供が気軽に遊べる公園から大規模な公園までそろっており緑豊かである 春の街路、公園の桜 ケヤキ通り、さざんか通りと緑豊かなまち 	<ul style="list-style-type: none"> 少への影響は微妙であるが近所の公園にはゴミ箱がない 地金堀の斜面を利用した植栽(以前はシバザクラが植えられていたがほとんどない) 	<ul style="list-style-type: none"> 教育の場面(学校・家庭)で身近な緑の効用とそれに対するコストについて説明してはどうか 雑草の除草の際に刈り取られた(シバザクラに代わる緑の草花の植樹が必要) 	<ul style="list-style-type: none"> 松葉第二近隣公園のサクラの木の剪定(ふるさと祭りでの町会のテントの設営がサクラの木の生長で年々困難になる) 		
中央地域					
<ul style="list-style-type: none"> 旭町地域は商店街、マンション、住宅、駐車場ばかりで自慢できることはない 他の地域では、あけぼの山農業公園・柏の葉公園が柏の名所として定着している 	<ul style="list-style-type: none"> 旭町地域は柏駅の周辺に位置しているため、再開発等公園や緑はほとんどなく劣っている 改善点としては抜本的にはないが、ビルが多いので屋上緑化の促進 他の地域では沼南地域と市内に残されている山林・緑を大切に可能な限り保全する努力を 都市計画で用途地域を厳しくするほか緑地・山林所有者に保全メリットを付与する施策を 	<ul style="list-style-type: none"> 旭町地域ほかでは、資産の有効利用(貸ビル・貸店舗・駐車場等)と相続税対策 改善・対応としては緑地・山林等を公共機関で買取り(市・県・国)保全・育成、税制面の優遇、生産緑地の適用拡大、保全奨励金を 	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防を兼ねた大人・高齢者用の遊具・保健器具を備えた公園づくり 大規模な防災公園を各コミュニティエリアに整備 今後とも現有する緑・水辺・公園は市民のいやしの場として充分な管理のもと保全を 遊休地を市が買取り植林・植樹を 	<ul style="list-style-type: none"> みどりの推進員 ふるさと協議会内の老人クラブや南口商工会等にみどりの推進をお願いしているほか、地域内の小学校・交番・側道等に草花の植栽、プランターの設置等の活動をしている 	<ul style="list-style-type: none"> 山林等緑の保全、大公園の整備等は良好な環境維持及び地球温暖化防止上からも国・県・市等が一体となり買取り財源の措置、税制の特典、開発の規制等法制化のもとに対策づくりをする必要がある
<ul style="list-style-type: none"> 緑化推進団体の活動により柏の葉公園・手賀沼周辺の公園・大堀川の公園などが整備され住みやすいまちになってきたと感じる 	<ul style="list-style-type: none"> 住居の近くに公園がほとんどない 公園に樹木があってもあまり手入れされていない 公園内に回遊性がない(大堀川から柏ふるさと公園など) 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な公園用地の先行取得がされていない すでにある公園や緑の維持管理に市民や企業のボランティアを活用する 	<ul style="list-style-type: none"> 自宅や寺社の樹木・花などを公開する 自宅からいくつかの公園を回遊できるルートがあること 西光院のボタン園などが大切にしたい 	<ul style="list-style-type: none"> みどりの基金 緑の推進員 	<ul style="list-style-type: none"> 市内公園の見学会 団体が活動しているメンバーの発表会
<ul style="list-style-type: none"> 千代田町地域の雑草で歩道が占拠されていた部分を町会・ボランティアで整備し花壇づくりをして四季折々の花が咲くようにした(みどりの基金の協力)ところ駐車違反の車が減少した。花を育てることで地域の絆づくりがより深まったなど相乗効果が出てきた 	<ul style="list-style-type: none"> 公園の整備状況が全国平均より劣っている 自然とのふれあい、いこいの場、環境、防災を考えて整備してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 相続税対策 自然を保全すること 	<ul style="list-style-type: none"> 人にやさしい公園整備 元気、勇気、気力があふれる水辺、公園を望む 	<ul style="list-style-type: none"> みどりの基金 緑の推進員 	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画マスタープラン策定ワークショップともかかわるので合同の意見交換会があっても良い 市役所の中で関係する部署の意見・参画も必要 策定されたものについては反映されているか否か検証する必要があるのでもっとヒアリングしてほしい
			<ul style="list-style-type: none"> まず現計画の成果を的確に検証する必要がある 森林の公益的機能に着目すれば森林・緑地の所有形態によって維持管理の費用負担(特に租税負担)が異なることは不合理である 森林・緑地のもつ公益的機能に着目して所有にかかるコスト(特に固定資産税)の軽減措置は実施可能ではないか 美しい街・緑の豊かな街を構築していくうえで公共的な緑地空間の確保、街路樹が植栽された道路整備などの配慮が必要であるが住宅敷地の確保も重要である。そのための社会システムの構築が求められている 概ね小学校学区程度の区域ごと(徒歩圏)に里山のような森林・緑地を整備・保全すること 森林・緑地の保全(所有)・管理・整備に企業が参画しやすい条件や環境を構築し参加した企業には緑地等の面積に応じて排出するCO₂量の削減量を調整する措置を講ずる 郊外では里山・森林を保全し街なかでは新しい森・緑地を創造する 森林・緑地の公益的機能という視点に立って森林・緑地を維持管理する、守る新しいシステムを創造する 森林地への不法投棄対策 経済成長期の発想で行われる再開発事業や区画整理事業による街づくりは発想の転換をすべき 森林・緑地の公有地化を促進するために地方税法の事業所税(都市環境の整備及び改善に関する事業の費用に充てるための税)の徴収を充当する 緑を守ることが地域の活性化や安定的発展に寄与するという認識を地域の人々が実感できなければ盛んすることは困難であるため農林漁業・商工業・教育・都市整備・道路街路整備・保健福祉・防災・環境・動植物の保護・税務等多方面わたる総合行政としての対応を望む 	<ul style="list-style-type: none"> 根戸緑地(伊藤ハム隣接斜面林)の保全を(市議会で保全請願採択)…近隣市民にとって大切な緑地であり下 	<ul style="list-style-type: none"> 傍聴者に内容・運営等について感想や気付いたことを書いてもらい記録に残してはどうか
<ul style="list-style-type: none"> 南柏の野馬土手は緑豊かで歴史的資産でもある 気象大学構内はサクラ・フジ・ツ 	<ul style="list-style-type: none"> 公園・学校や個人宅での樹木への農業散布は環境汚染である 	<ul style="list-style-type: none"> 剪定や捕殺による病虫害防除へ(剪定枝のリサイクルを) 	<ul style="list-style-type: none"> 緑をつくる取り組みの推進 柏駅周辺は屋上緑化を 	<ul style="list-style-type: none"> 根戸緑地(伊藤ハム隣接斜面林)の保全を(市議会で保全請願採択)…近隣市民にとって大切な緑地であり下 	<ul style="list-style-type: none"> 傍聴者に内容・運営等について感想や気付いたことを書いてもらい記録に残してはどうか

1. お住まいの地域や市内の他の地域で、公園や緑について良いと思う事や自慢できること	2. お住まいの地域や市内の他の地域で、公園や緑について悪い事や他の市より劣ると思われること、改善すべきと考えること	3. 上記2に関して、その要因は何であると思いますか。また、どう改善しない、対応したら良いと思われませんか。	4. お住まいの地域や市内の他の地域で、緑や水辺、公園について、今後(将来に亘って)こうあってほしいこと、大切にしたいこと	5. 居住している地域や柏市内で、緑の保全や緑化に関わりをもっていたり、何か活動をされたりしている方は、具体的な内容を記入してください。	6. その他、市民懇談会について、ご意見・ご要望・ご提案・ご感想など
<ul style="list-style-type: none"> ツジなどの花が楽しめる紅葉がきれいで散策・ウォーキングの場となっている 柏駅ステーションモールの西口側壁面の緑は玄關の景観として魅力的 	<ul style="list-style-type: none"> 農地と住宅地が隣接したところでの農業散布と農地からの土埃 8月末駅周辺のプランターの花が枯れていて衰れである 	<ul style="list-style-type: none"> 無・低農薬栽培 		<ul style="list-style-type: none"> 草刈りなど自主的に維持管理しているの財務省に貸与願いを 	
<ul style="list-style-type: none"> 市内には多くの緑地や公園があるが今後も大切に守っていかねばならない 緑地についてはあまり手を加えず動植物の生存空間となるよう保存・管理されているところは小中学校の教育の場ともなり残したい 増尾城址公園は自然が豊かで市民だけでなくサラリーマンの憩いの場となっており目的を十分に果たしている 豊四季第一緑地は中に入ると夏でも涼しく生活に密着した緑地として残しておきたい 	<ul style="list-style-type: none"> 手賀沼の遊歩道はどこから見ても沼が見えて見晴らしが良くサイクリングをする人たちにも好評であるが、遊歩道とヨシ原の間にさえるものがなく人が近づくと鳥が飛び立ってしまうので樹木を植えてほしい。沼の見えないところがあっても良い。鳥を愛する人たちがもつと集まってくるはずである 高田野鳥公園の生き物調査を行ったが野鳥がいない。これはフェンスに囲まれた低い湿地に樹木が育ちすぎて日が当たっていないため日が当たるよう人手を加えると湿地性の生き物が増え鳥が餌を求めて集まるようになる 	<ul style="list-style-type: none"> これからの公園は人と生き物(広義の動植物すべてを含む)との共存の場を考え、いく必要がある。そのことで鳥たちにも生活の場を与えることができるようになる。ヨシ原は多くの生き物が生活できる場でありこの生き物が鳥たちの餌となって生態系を構成している 増尾城址公園には底がコンクリートの池があるがこれでは一部の生き物しか生活できない。またコンクリートの肌が見えるまできれいに掃除しているがこれではせっかく産卵したトンボのヤゴなどが全滅している。トンボが飛び交う公園を目指すにはトンボがすみやすい環境が必要である 	<ul style="list-style-type: none"> 市内には千葉県で絶滅危惧種に指定された多くの動植物が生息しているのでこれらの保護策が必要である。 高田野鳥公園にはマイヅルテンナンショウ(最重要絶滅危惧種)の大きな群落があるので絶滅する前に保護策が必要である 運河に接した大青田の斜面林と湿地はオオタカやサシバの生活圏である 南部クリーンセンターの未整備部分は公園にする予定であるが木を伐採して平地にしてから植樹するのではなく今ある木を残してほしい。水路や池も計画されているがコンクリート製ではなく多自然川づくりの手法に従って生き物と共存できる公園にしてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 名戸ヶ谷ビオトープの運営・管理(住宅地にありながら人手を加えることにより生き物の育成空間をつくっている。樹木は数本しかないが年間120種以上の生き物(うちレッドリスト24種)を観察している) 柏環境ステーションの市内全域を対象とした自然環境調査(既に観察した絶滅危惧植物のある土地の地主にレッドリストの写しと植物の写真を渡し保護をお願いしている。文京学園や二松学園大学は積極的に保護し草刈りや学生の立ち入りに配慮している) 個人でも箕輪の藪崎家では屋敷林の保護をお願いしている 	<ul style="list-style-type: none"> 緑が開発されるのは地主たちの相続等によるところが大きい 税制上の対策等をあわせて検討してほしい
南部地域					
<ul style="list-style-type: none"> 南部公園は樹木が多く大変良い。公園の一角を借りてみんなで花壇づくりをがんばっている。6月から9月の間にマヤランが出る所があるほか、7月には柏南部まつり会場となり多くの人の輪ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 南部公園は落葉樹が多いため秋から冬にかけて落葉がたくさん出る。月2回の清掃を月4回にしてほしい。枝の剪定もお願いしたい 	<ul style="list-style-type: none"> 枝や葉を落とさないと日の当たらない所がある 犬の散歩で糞が多いので困っている。犬専用の公園をつくっても良いのではないか 公園内の花壇の管理、シバザクラや季節の花の草取りをしているが夏の水や年間を通して草取りが大変でもう少しボランティアを増やしたい 	<ul style="list-style-type: none"> 犬の散歩についてはマナーを守らせるために犬専用の遊び場が欲しい。道路についても同じ 	<ul style="list-style-type: none"> 南部公園・逆井小・土南部小にこれまで樹木の名札・名板をつけていた人がいなくなり困っている 南部公園の一角に花壇づくりを平成9年から行っている。リニューアルのときに植えたアガパンサスがこの間3回の株分けを行い面積が多くなった 	<ul style="list-style-type: none"> 建設業の方が山や畑をくずし家を建てる時に市の担当が現場をみて緑を残す指導をすべきという意見があったが、この点について具体的に説明してほしい(確認申請) 他の人の意見が参考になる 地球温暖化防止のためにも常緑樹を特に車の通りの多い場所に植えるべき
<ul style="list-style-type: none"> 下田の杜(酒井根下田自然拠点約6.8ha そのうち中央及び南の部分1.7haが酒井根下田の森緑地):市街地にありながら極相斜面林を含む多様な樹林・田畑・家屋・湧水群など変化に富む地形とあわせて里山の原風景をとどめており地域最大の緑のダム。サワガニ・メダカ・オニヤンマ・ヘイケボタルなどが 	<ul style="list-style-type: none"> 鎮守の森として崇められてきた多くの社寺の境内林は樹種が貧弱で衰退している 学校用地・公共施設用地等の緑化は不適切不十分と思える事例が少なくない 条例に基づく保存樹木の指定に戦略性が読み取れない 街区公園等の樹種選定に生態的 	<ul style="list-style-type: none"> 人類を含めた動植物の多様性の意義、地球温暖化防止、都市の景観上も緑は欠かせないことを市民に共有してもらうなど行政情報の発信がまだ十分とはいえない 自然植生等に配慮した計画的緑化に努め特に行政関係管理用地すべてにおいて積極的に緑化を推進する 私企業・私学等と積極的に緑化協定等を 	<ul style="list-style-type: none"> 地権者の協力を得て特別緑地保全地区の指定等緑関連法を駆使し下田の杜全域の保全に向けた段階的公有地等の道筋を早期に確立してほしい。関係町会重視に偏向した現行の酒井根下田の森緑地里山協議会を発展的に解消し当時の懇談会でまとめ確認した趣旨の緑地となるよう維持管理に参画 	<ul style="list-style-type: none"> 下田の杜の自然を守る会 副代表 酒井根下田の森緑地里山協議会役員 日本自然保護協会自然観察指導員 	

1. お住まいの地域や市内の他の地域で、公園や緑について良いと思う事や自慢できること	2. お住まいの地域や市内の他の地域で、公園や緑について悪い事や他の市より劣ると思われること、改善すべきと考えること	3. 上記2に関して、その要因は何であると思いますか。また、どう改善しないし、対応したら良いと思われますか。	4. お住まいの地域や市内の他の地域で、緑や水辺、公園について、今後(将来に亘って)こうあってほしいこと、大切にしたいこと	5. 居住している地域や柏市内で、緑の保全や緑化に関わりをもっていたり、何か活動をされたりしている方は、具体的な内容を記入してください。	6. その他、市民懇談会について、ご意見・ご要望・ご提案・ご感想など
<p>生息カントウタンボボの群落もある。カワセミが飛来しカルガモ・フクロウが毎年子育てをする。東西200余にわたる野馬堀は歴史的にも価値が高い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中原ふれあい防災公園の隣接林約1.2ha:野鳥や昆虫たちの生息空間として、都市の景観、防災上も失いたくない樹林で季節を実感できる地域自慢の緑空間 ・ 光ヶ丘学園エリアの緑と東に連なる農地と樹林:特に広池学園は柏市域部分だけでも41.6haに及ぶ緑のオアシスで法人所有地としても特段に緑被率が高い 	<p>特性が感じられない(なぜゾメイヨシノばかりなのか等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緑が年々減少している ・ 市街化区域の樹林地は開発の危機にある。調整区域の林や放棄水田は資材置き場や作業所となり自然が破壊されている ・ 林はポイ捨てや不法投棄の現場となっている ・ 竹林の管理がされておらずひどい状態である ・ 紅葉を楽しむ前に街路樹が剪定されてしまう ・ 住宅地の身近な公園の再考し特色のある公園に 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 結び緑化とその維持管理を義務づける ・ 誰にでもわかりやすく気軽に参加できる長期持続的な市民運動型「緑の創造作戦」を展開する。このためには宮脇理論によるふるさとの森づくりも有効 ・ 長期に(50年以上、最低でも30年以上)市民に開放できる私有樹林の納税猶予の実現を引き続き関係官庁に働きかける 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協力する団体・グループも構成員となれる協議会にするよう指導してほしい。 ・ 中原ふれあい防災公園隣接地にも具体例を見るままとりのある一定規模以上の樹林の保全に向けては長期(償還30年以上)の市民債発行による公有地化を考えても良い。時として関係市民が負担して行政に直接関係しないトラストの積極的活用についても行政として方向性を示すことが肝要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 増尾の里山を守る会 <ul style="list-style-type: none"> ※ 私有地が自然を守る。その私有地を守るためにできることはないか…「増尾の里山を守る会」では地主と話し合えるところから整備している。林道周辺のゴミ拾いと整備、水路清掃、放棄休耕田管理を行う ※ 現在はひまわり・コスモス・菜の花畑に、荒地をアジサイ畑にしている。里山林の整備は理解が得られず林道沿いのゴミ拾いのみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ まわりで緑の減少や荒れた里山を憂う人が多くいるが一般公募が各地域2名で責任の重さを感じる ・ 柏市は手賀沼・あけぼの山・柏の葉公園・増尾城址公園等緑や水辺に恵まれているが、まちなかでは相続等のために地域の樹林地が次々になくなっている ・ 緑の保護地区・みどりの広場・市民緑地等があるが3~5年で解除可能のため一時凌ぎである ・ 買い取ることができないならば開発に当たっては景観を大きく変えないよう緑を残す自然環境に配慮した開発を誘導すべき ・ 民有地は地主・行政・地域住民で守ってほしい
<ul style="list-style-type: none"> ・ 増尾地区には増尾城址、中原ふれあい防災公園など公園緑地に加えニッカの森、広幡八幡宮、増尾の里山、屋敷林、雑木林など自然豊かな緑が点在する。 ・ 水の豊かな所でもある(第3水源地) ・ 増尾の里山ではホテルが生息(柏ホテルの会管理)し休耕田を利用しな花、ひまわりが植えられている(増尾里山の会管理) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内の樹林地が消滅し大型店や住宅地に変わっていくことに歯止めがかからない ・ 管理されずグズが巻きつき荒れたまま放置されている樹林地が各所にあり、こんな林は不法投棄を誘うためいらないと思われること ・ 機能のみ優先させた道路…市内の道路のほとんどは木陰のない貧しいもの ・ 駅前ロータリーの植栽…人を寄せ付けられない見だけの飾り物になっている。人が休めるようにできないものか ・ 公園や道路の樹木の無残な剪定 ・ 各所に置かれた管理や水遣りが不十分なプランター ・ 柏西口とみどりが丘のポケットパーク…お金をかけたが人の姿を見ない ・ 中原ふれあい公園の刈った草の処理…プロセス管理や長期的な見通 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相続税を猶予する(農地と同様の)精度がないこと、緑の基本計画に年次計画や財政計画がない ・ 維持管理できない地主に代わり一定の報酬を得ながら市民が管理委託を受けられる制度が十分でない ・ 道路をつくるとき歩道と緑地帯が十分確保されていない ・ ロータリー植栽のイメージが固定化している ・ 落ち葉について市民の理解がないことや行政が市民を説得する意欲に欠ける。落ち葉については定期的な道路清掃など対応策がないのでは ・ 計画時に市民との協働が生かされず行政だけでプランをつくっていることや長期的な見通しがいないこと ・ 身近な緑を守り大切にすることが地球環境を守ることにつながるという意識をもてる市民を増やす全市的施策が必要であるとともに将来の施策決定にかかわる子どもたちが自然の生態系や自然と人間 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中原ふれあい防災公園と隣接林が将来にわたり一体的に保全されること(隣接林の公有地化) ・ イヌシデ・ケヤキ・コナラ・シラカシなどが茂り年間30種の鳥が訪れキンラン・マヤランなどが咲くなど生態系の拠点となっている ・ 子どもたちの自然観察の場として活用できる可能性がある ・ 防災機能の強化に役立つ ・ 公園と一体となって潤いと安らぎを与える景観となっている ・ 清掃・整備している市民団体が存在し林の維持・管理・利用などで市民と行政の協働が図られる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO法人牧場跡地の緑と環境を考える会(1992年発足 180人) ・ 中原ふれあい防災公園隣接林保全基金(2006年発足 40人) ・ 中原ふれあい防災公園管理運営協議会(9団体) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 可能な限り多くの緑を残す方向で進めてほしい。財政面でも市民が参加できる手法(市民債など)を提案できることと良い ・ 「柏市植生管理計画」を地域を特定して具体化させ実現させたい ・ 手入れのされない樹林地や耕作放棄された農耕地については市民が管理・耕作できる手法を提案できれば良い ・ 基本計画を具体的に示すようにする <ul style="list-style-type: none"> ※ 緑被地の目標を緑の種類別に示す ※ 緑の将来像は丸などで示すのではなくエリアを特定できるように具体的に示したい ※ 計画達成のための財源計画をつくる ・ 会議が不消化に終わらず時間をかけて達成感が持てるようにしたい
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手賀沼と大堀川の一部…大堀川・津が沼を囲み、ふるさと公園・北柏ふるさと公園・遊歩道が一体となっているが一部で水辺が遠くなった感がある ・ 戸張の水田…稲作によって季節の推移を感じる ・ 中原ふれあい防災公園と隣接林…中原密集した住宅地の中で老若男女でにぎわっている。公園の花壇は市民参加により維持管理されている。隣接した林は景観・防災上からも公園と切り離せない ・ 緑ヶ丘交差点 野馬土手のあたり…春にはシダレザクラが咲く ・ 柏の葉公園のケヤキ通り ・ 松葉町のケヤキ並木 ・ 新柏桜並木 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内の樹林地が消滅し大型店や住宅地に変わっていくことに歯止めがかからない ・ 管理されずグズが巻きつき荒れたまま放置されている樹林地が各所にあり、こんな林は不法投棄を誘うためいらないと思われること ・ 機能のみ優先させた道路…市内の道路のほとんどは木陰のない貧しいもの ・ 駅前ロータリーの植栽…人を寄せ付けられない見だけの飾り物になっている。人が休めるようにできないものか ・ 公園や道路の樹木の無残な剪定 ・ 各所に置かれた管理や水遣りが不十分なプランター ・ 柏西口とみどりが丘のポケットパーク…お金をかけたが人の姿を見ない ・ 中原ふれあい公園の刈った草の処理…プロセス管理や長期的な見通 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相続税を猶予する(農地と同様の)精度がないこと、緑の基本計画に年次計画や財政計画がない ・ 維持管理できない地主に代わり一定の報酬を得ながら市民が管理委託を受けられる制度が十分でない ・ 道路をつくるとき歩道と緑地帯が十分確保されていない ・ ロータリー植栽のイメージが固定化している ・ 落ち葉について市民の理解がないことや行政が市民を説得する意欲に欠ける。落ち葉については定期的な道路清掃など対応策がないのでは ・ 計画時に市民との協働が生かされず行政だけでプランをつくっていることや長期的な見通しがいないこと ・ 身近な緑を守り大切にすることが地球環境を守ることにつながるという意識をもてる市民を増やす全市的施策が必要であるとともに将来の施策決定にかかわる子どもたちが自然の生態系や自然と人間 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中原ふれあい防災公園と隣接林が将来にわたり一体的に保全されること(隣接林の公有地化) ・ イヌシデ・ケヤキ・コナラ・シラカシなどが茂り年間30種の鳥が訪れキンラン・マヤランなどが咲くなど生態系の拠点となっている ・ 子どもたちの自然観察の場として活用できる可能性がある ・ 防災機能の強化に役立つ ・ 公園と一体となって潤いと安らぎを与える景観となっている ・ 清掃・整備している市民団体が存在し林の維持・管理・利用などで市民と行政の協働が図られる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO法人牧場跡地の緑と環境を考える会(1992年発足 180人) ・ 中原ふれあい防災公園隣接林保全基金(2006年発足 40人) ・ 中原ふれあい防災公園管理運営協議会(9団体) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 可能な限り多くの緑を残す方向で進めてほしい。財政面でも市民が参加できる手法(市民債など)を提案できることと良い ・ 「柏市植生管理計画」を地域を特定して具体化させ実現させたい ・ 手入れのされない樹林地や耕作放棄された農耕地については市民が管理・耕作できる手法を提案できれば良い ・ 基本計画を具体的に示すようにする <ul style="list-style-type: none"> ※ 緑被地の目標を緑の種類別に示す ※ 緑の将来像は丸などで示すのではなくエリアを特定できるように具体的に示したい ※ 計画達成のための財源計画をつくる ・ 会議が不消化に終わらず時間をかけて達成感が持てるようにしたい

1. お住まいの地域や市内の他の地域で、公園や緑について良いと思う事や自慢できること	2. お住まいの地域や市内の他の地域で、公園や緑について悪い事や他の市より劣ると思われること、改善すべきと考えること	3. 上記2に関して、その要因は何であると思いますか。また、どう改善しないし、対応したら良いと思われますか。	4. お住まいの地域や市内の他の地域で、緑や水辺、公園について、今後(将来に亘って)こうあってほしいこと、大切にしたいこと	5. 居住している地域や柏市内で、緑の保全や緑化に関わりをもってたり、何か活動をされたりしている方は、具体的な内容を記入してください。	6. その他、市民懇談会について、ご意見・ご要望・ご提案・ご感想など						
	しが必要	のかかわりを学ぶ機会をたくさんもてるようにする									
<ul style="list-style-type: none"> 沼南地域に見事な谷津の風景が残されている 利根運河沿いの大青田の湿地帯は手付かずの大自然が残り貴重生物の宝庫となっている 大堀川沿いと手賀沼南岸は多自然型水路と緑道が完全に整備され大公共事業を緑地と憩いの場の確保に結びつけた こんぶくろ池と周辺の森が公園として保全される 酒井根下田の森や中原ふれあい公園隣接林など緑を守る市民活動が各地で進められている 	<ul style="list-style-type: none"> 昭和 30 年代からの大規模な宅地開発によって広大な森が失われ近隣市町と比べ街の緑が少ない 沼南地域において宅地の乱開発が次々と行われ谷津の自然が失われはじめたこと 北部土地利用計画は大規模緑地や手賀沼の自然水源地域に対する配慮に欠けた「開発第一主義計画」といわざるをえない 	<ul style="list-style-type: none"> 柏市を環境共生都市にしようとの明確な政治意思が打ち出されてこなかった 地球環境温暖化条例も制定された現在今回の基本政策検討を通して市政の中に緑優先思想をビルトインしていただきたい 緑の基本計画を環境や街づくりと一体の重要課題と捉え各部門を結集した総合企画的な場で検討してほしい 民有地の問題は地権者個人と地域住民に委ねられ市の支援がほとんどなかったことから緑を維持するための地権者への助成や乱開発を防止するきめ細かい条例等市民に協力を求めることも含めて整備すべき 	<ul style="list-style-type: none"> 北部土地利用計画は特に大堀川と手賀沼にとっての(こんぶくろ池からつながる)貴重な水源地域の自然水路と緑地を保全・育成するよう見直していただきたい 地権者が緑地を持ちつづけられるように保全の補助にするとともに市民が寄付する基金によって費用の一部をまかなうなど市民の共有財産として確保していくことが望まれる 市はこのような活動の指導者を育成し法的・税制的・資金的な面を整備して積極的に支援する役割を担ってほしい 緑は近隣市とつながっており連携した施策をとってほしい(近隣市の緑を柏市と市民の手で育成することも必要になるのではない) 大青田などの手付かずの大自然地帯を壊さないようなウォーキングする道の整備や熱環境緩和効果を市民と一緒に調査するなどの温暖化の中で緑の大切さを身近に知る試みをしてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 中原ふれあい防災公園の花壇と畑の整備に参加 かしわ環境ステーション研究会手賀沼グループと手賀沼にマシジミとガシャモクを復活する会 柏自然環境調査会の大堀川エリアグループの世話役 	<ul style="list-style-type: none"> 緑の状況の正しい把握が政策のスタートとして重要であるが緑被率は市民が思い描く緑の実態を表していないので今回の調査では最新の調査解析技術も使い緑の種類ごとに区分けされた(あるいは種類による重み付けがされた)緑被率の実態を明らかにし過去や開発計画による将来の姿との対比を正確に示してほしい 懇談会メンバーにとっての身近なあるいは保全活動の対象にしている緑地だけに話が傾きすぎないようできるだけ柏市全体の状況をみた議論を望む 						
				里山の会							
沼南地域											
<ul style="list-style-type: none"> 沼南地域は手賀沼・大津川・手賀川・金山落・染井入落と水辺に接し、県立手賀沼自然ふれあい緑道・手賀の丘少年自然の家・手賀の丘公園・市民の森・ふるさとの森・谷津田・斜面林と他に四季を彩る屋敷林、果樹園、田・畑の風景など数多くの緑と自然があり多くの人々が散策に訪れる これらは大半は所有者が先祖より受け継ぎ保存し管理し日頃の労力を必要としている。市街地の人々に憩いの場を提供する交流の場であるように願う。 	<ul style="list-style-type: none"> 車両通過時の不法投棄、粗大ゴミの場となりやすい 管理が行き届かない山林等の風水害による倒木未処理(通行障害・家屋障害) 公園等の不心得利用者による迷惑行為(ペット放し飼いや糞の未処理、騒音行為、施設・樹木破損、破壊行為) 斜面林の保護・保全へ条例化(災害防止、無謀な景観づくり防止) 	<table border="1"> <tr> <td>要因</td> <td>改善</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 夜間及び暗闇開場所へごみ投棄 所有者の高齢化により管理が行き届かず転売または賃貸して利用者の使用目的が定まらず放置 利用者のモラル低下 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 条例の強化(罰則等) 条件付きの転売、賃貸を指導 施設の定期点検義務化 </td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 開発行為による伐採等 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 管理・運営に助成を明確化 </td> </tr> </table>	要因	改善	<ul style="list-style-type: none"> 夜間及び暗闇開場所へごみ投棄 所有者の高齢化により管理が行き届かず転売または賃貸して利用者の使用目的が定まらず放置 利用者のモラル低下 	<ul style="list-style-type: none"> 条例の強化(罰則等) 条件付きの転売、賃貸を指導 施設の定期点検義務化 	<ul style="list-style-type: none"> 開発行為による伐採等 	<ul style="list-style-type: none"> 管理・運営に助成を明確化 	<ul style="list-style-type: none"> 緑化・水辺の育成保存を、市民の一人ひとりに緑の大切さを説くこと、近年の地球温暖化により生態の季節感が損なわれている現状をPRする 緑化地域のPR活動(施設の見学会、緑化活動体験会、講演・講習会) 学童へ緑化区域を提供し、教育の一環として緑・水辺の植樹・管理を通年で体験 緑や水辺、公園を市民に貸し出し緑化の意義を高める 	<ul style="list-style-type: none"> 屋敷内を四季にそった花木を植栽し緑化活動を展開 地域の緑化環境を散策し問題提起を心がける 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の自治会、町会、区会及び事業所を通じ緑の育成・保存を説き協働事業として喚起を促す 緑の基金に市民の積極的な賛同を得て協力を仰ぎ市域の保存・運営に利用する 行政当局の関連部署との連携により同じ目線で対応する協調性をとる(条例化等) 市民の緑化活動に多大な協力者を顕彰する
要因	改善										
<ul style="list-style-type: none"> 夜間及び暗闇開場所へごみ投棄 所有者の高齢化により管理が行き届かず転売または賃貸して利用者の使用目的が定まらず放置 利用者のモラル低下 	<ul style="list-style-type: none"> 条例の強化(罰則等) 条件付きの転売、賃貸を指導 施設の定期点検義務化 										
<ul style="list-style-type: none"> 開発行為による伐採等 	<ul style="list-style-type: none"> 管理・運営に助成を明確化 										

1. お住まいの地域や市内の他の地域で、公園や緑について良いと思う事や自慢できること	2. お住まいの地域や市内の他の地域で、公園や緑について悪い事や他の市より劣ると思われること、改善すべきと考えること	3. 上記2に関して、その要因は何であると思いますか。また、どう改善ないし、対応したら良いと思われますか。	4. お住まいの地域や市内の他の地域で、緑や水辺、公園について、今後(将来に亘って)こうあってほしいこと、大切にしたいこと	5. 居住している地域や柏市内で、緑の保全や緑化に関わりをもってたり、何か活動をされたりしている方は、具体的な内容を記入してください。	6. その他、市民懇談会について、ご意見・ご要望・ご提案・ご感想など
	<ul style="list-style-type: none"> 市街地での緑の減少 	<ul style="list-style-type: none"> 開発行為による緑地・公園等公共用地の保有率見直し及び屋上・壁面緑化の促進 			
<ul style="list-style-type: none"> 柏と合併後良くなったことのひとつに公園の草刈りがある。次の草刈日を表示することは新鮮に感じる 	<ul style="list-style-type: none"> 松戸市にはトイレがあるが柏市にはない(沼南だけか) 	<ul style="list-style-type: none"> 細かい対応 	<ul style="list-style-type: none"> 樹木の手入れが不足している 高柳小・中学校で6月5日、セルコートで樹木の防虫対策をしたが8月14日に虫に食われていることを発見し22日に再手入れとなったが、こんな手段(農業使用不可)で緑が守れるのか心配である サンビレッジ専用の公園は相続の関係で売却となってしまった。立派な緑の山は平らに整地され住宅に早変わり中である。相続対応について勉強したい。緑地を残すことを開発条件に入れられないか。 ローレルヒルズ手賀の社の開発地は山林が62%近くあったが見事に開発された。公園は地区面積の3%を当てることになっているが今は緑は見当たらない。広い道路のまわりをグリーンベルトにするなど開発指導はできないものか 委員から緑を開放する意見が出ている。農地開放と住宅地造成と緑を守ることの調和のとれた具体策が出てくることが望まれる 調整区域(農地)、相続関係、許可担当を知りたい 	<ul style="list-style-type: none"> 大津川をきれいにする会に参加(周辺の緑道の整備等) 	<ul style="list-style-type: none"> 4分割方式は良い
<ul style="list-style-type: none"> 農地地帯の原風景が残り非常に落ちつける環境である 			<ul style="list-style-type: none"> 現状の維持を切に希望するが相続税等諸税負担により屋敷林の伐採も致し方ない 	<ul style="list-style-type: none"> 柏里山の会 	<ul style="list-style-type: none"> 沼南地域のために緑は豊富に残っているが現状では必要な場所に緑がなく、参加者の緑に対する認識も大差がありすぎる 諸税(特に相続税)に対して大胆に取り組まなければ必要な場所の緑は皆無と化す
<ul style="list-style-type: none"> 大津川は水質やゴミの面で汚れているが川の両岸には水田・畑・斜面林と数と水量はすくなくなったが湧水も点在し日本の原風景が残されている。流域には特産の梨畑が多く見られる 市の公園が定期的に除草されている 	<ul style="list-style-type: none"> 川や斜面林(一部保存林)、公園などに平気でゴミを捨てる人がいる 大津川の水質はここ数年足踏み状態である 大津川に歩道が設けられているが夏は雑草の繁茂で多くの所で通行できない 斜面林などの緑地の維持・管理が懸念される 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も行政、地域の住民・企業・学校などが協力し合って環境の浄化に努めていくことが必要で自然や公園・まちがきれいになればゴミを捨てる人もなくなる 下水道の普及率を高め、それまでは簡易的な合同浄化施設が必要 大津川は関東葛地域整備センターの管理で「大津川をきれいにする会」で清掃計画を提出しているが認められていない。会では清掃の1週間前に除草している 	<ul style="list-style-type: none"> 隣接市の斜面林が売りに出されるなど今後の緑地の維持・保存が懸念される。是非大津川を中心とした貴重な景観が失われないよう後の世代の人々のためにも行政側も努力してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 大津川をきれいにする会(大津川(1級河川部分 鎌ヶ谷市佐津間白幡橋～手賀沼河口(全長7.9km 平成16年4月発足 会員64名) ※ 大津川(水辺～土手)の清掃(年8回) ※ 倉庫を無償提供している農家の保存林の管理(年1回) ※ 大津川・湧水の水質調査(各2箇所 年1回) ※ 大津川流域の自然と歴史を訪ねる「散策ウォーキング」(年2回) ※ 会報「せせらぎ」の発行 毎月 ※ ホームページ開設 	<ul style="list-style-type: none"> 今回は沼南地域の果たす役割は特に重要であるので農家や斜面林など緑地・森林の所有者の協力を得て実現したい 休耕地も計画に利用できる場所があるのではないかと 同じ植生でありながら市境界を跨ぐことによって景観にそぐわない開発が行われることがないよう、また隣接市の計画と整合を図り協力しあうためにも計画をまとめる場合に隣接市にも知らせる必要があるのではないかと。
<ul style="list-style-type: none"> 沼南地区は斜面林が多く緑が豊か 公園や街路樹も多い 	<ul style="list-style-type: none"> 手付かずの山林が多くゴミの不法投棄の場所となっている 相続税の関係で山林が売られ宅 	<ul style="list-style-type: none"> 山林を手入れする人が少ない、活用されていない(高齢化等が原因) ボランティア等手入れをする人を募る 	<ul style="list-style-type: none"> 今は住宅地、田、畑、山林と調和が取れて存在しているのでこのバランスをくずさないでほしい 	<ul style="list-style-type: none"> 手賀沼森友会 手賀沼周辺の山林(現在のところ高田の森 我孫子)の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 意見交換だけでなく緑を守る活動にまでつながると良い

1. お住まいの地域や市内の他の地域で、公園や緑について良いと思う事や自慢できること	2. お住まいの地域や市内の他の地域で、公園や緑について悪い事や他の市より劣ると思われること、改善すべきと考えること	3. 上記2に関して、その要因は何であると思いますか。また、どう改善ないし、対応したら良いと思われますか。	4. お住まいの地域や市内の他の地域で、緑や水辺、公園について、今後(将来に亘って)こうあってほしいこと、大切にしたいこと	5. 居住している地域や柏市内で、緑の保全や緑化に関わりをもっていたり、何か活動をされたりしている方は、具体的な内容を記入してください。	6. その他、市民懇談会について、ご意見・ご要望・ご提案・ご感想など
	地化されてしまう	<ul style="list-style-type: none"> 相続税のために持ち主が土地を売らなくてもよい施策を 			
<ul style="list-style-type: none"> 手賀の丘公園は地主と地域住民と協力し合って公園を守っている 	<ul style="list-style-type: none"> 他を知らない 	<ul style="list-style-type: none"> 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが安心して時を過ごせる場所でありたい 	<ul style="list-style-type: none"> 公園内の地主による草刈りとゴミ拾い 	<ul style="list-style-type: none"> 狭い地域のことでなく広い視野で皆さんの意見を聞き自分の考えをまとめたい
<ul style="list-style-type: none"> 手賀の丘公園は樹木が豊富で散策すると木もれ日の中で気持ちが良い。休まる落ち着ける場所として人気がある。管理が大変であると思うが他の荒れ放題の放置された森が誰でも親しめる森にできればと思う 手賀沼の自然を守るボランティア団体があり定期的にゴミ収集や雑草刈り等保全のための活動をしているようすを目にしたことがある 	<ul style="list-style-type: none"> 一見遠目には緑豊かな森に見えるが沼南の荒れ放題の林地はゴミ捨て場となり手入れの入らない林地が各所にある 	<ul style="list-style-type: none"> かつては里山は生活の一部で多方面に利用されてきたが生活文化の発展とともにその価値が激減し地主も手入れをする余裕がなく放置せざるを得ない状況にあると思われる 相続のたびに手放さざるを得ない問題もあり大型宅地開発で売れるうちに手放そうという考えもある 	<ul style="list-style-type: none"> 緑地を切り開く開発についての条件として緑地比率をできるだけ多く取りそれを守らせることが大切である 緑地保全のための市の買い上げや地主を応援する保全のためのボランティア組織も今後必要である 	<ul style="list-style-type: none"> 	<ul style="list-style-type: none">

柏市緑の基本計画策定市民懇談会 意見シートまとめ—2(第3回懇談会(視察)時に配布)

1. 本日の視察で印象に残った場所や視察の感想について	2. これまでの市民懇談会を踏まえ、今後の柏市の緑のまちづくりで考えていくことが必要であると思われることについてお書きください。				
	樹林地や農地などの保全について	公園について	街並みの緑化について	緑に関する意識啓発など	その他
<ul style="list-style-type: none"> 一日かけて主な公園すべてを廻り市の公園の全体像をつかめたのは有意義だった。 手賀の丘公園及び周辺の沼南地区に残されたまだ手付かずの広大な樹林地には、ホッとさせられた。この貴重な自然を大切に持続したい。 柏ビレッジは街路樹をはじめ緑にあふれ感じのいいところで、自然と調和した永年の街づくりの努力が感じられた。 	<ul style="list-style-type: none"> 樹林地の日常的な保全に関しては、色々な市民ボランティア活動も立ち上がり地権者支援の途が出来つつあると思われる。行政による適切な指導、仲立ちをお願いしたい。 相続税に対する対策なしに樹林地の保全は不可能と感じるが、猶予措置の見直しは明るくはない。税額が膨大なだけに、これを助成するためには行政上のアイデアとともに市民有志の基金、市民債、更には森林保全税といった負担までのすべてを活用していくことが必要ではないか。特に市民債と保全税については今回の基本計画策定を機に市の検討課題として明確に位置づけていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 公園をつくる場合、郊外にしるまち中にしろ今ある自然の由来を尊重し出来るだけ手を入れずにそのまま公園にするのがベスト。 高田野鳥公園は貴重な生物区なのだろうが鉄条網で囲まれたままでは味気ない。貴重種を保持しながら市民が親しめる場所になるよう知恵を絞って欲しい。 大堀川から沼南道の駅まで繋がる柏市が誇れる大遊歩道沿いに、日陰で憩える並木が出来ればなおすばらしいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 市街地の街路樹は一部にすばらしいところがあるが概して貧弱である。山林が減少する中でまち中の木々はその重要な代りをなすものであり、現在の緑の基本計画にある通り積極的に推進して欲しい。特に新規住宅地開発には今以上の植樹を規定して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 市内緑地探訪コースの紹介や市民参加の市内緑地バスツアー(今回のような駆け足でなくゆったりしたもの)をやって欲しい。 市内には沼南東部や利根運河沿いの地区等にまだまだ大自然が残されており、もっと多くの市民にこれを楽しんでもらいたい。それが緑の理解にも繋がる。自然を毀損しないウォーキングコースを指定して積極的にPRしてほしい。 森林の持つマイナスイオンや熱緩和等の効果を市民が測定し実感する試みをやってみてはどうか。 	
<ul style="list-style-type: none"> 最後に視察した大堀川リバーサイドパークが最も印象に残った。大堀川の遊歩道が手賀沼と通じたことを伺い非常に良かった。手賀沼と大堀川が一体となったことにより、大堀川遊歩道の魅力が格段に増したと感じた。健康のため遊歩道から手賀沼を一周してみたい。桜の木も年々の成長が楽しみ。 あまり人の手を加えずに昔の里山のままに残そうとしている酒井根下田の森など視察した緑ごとに特徴がありそれぞれに良さがあった。 市役所や地域住民、協議会のかたの継続的な尽力により緑の環境が保たれているということを感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 相続時の売却や物納は避けられず、また市が買い取るにも財政的な負担が大きいことから難しい問題である。緑地の保全に貢献しているかたを名誉市民として表彰するなどの方法も必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 常に快適で居心地の良い環境・空間であって欲しい。近隣利用者を中心とした清掃活動を推進してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 年々都市化が進み緑が減って集合住宅や戸建住宅が建築されることは避けられないことであるが手賀の杜のように環境に配慮するコンセプトのはっきりした住宅街を増やすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の参画する協議会方式による運営をもっと推進すべきと思う。活動に参画することにより環境に対する意識も高まるかと期待される。 	
<ul style="list-style-type: none"> 視察自体は、柏の現況を知る上で非常に有意義だった。 旧沼南の斜面林のような民有地、市街地から離れたところにおいて市民のレクリエーションに供する公園、市街地のど真ん中にあり日常の市民生活と密接に繋がっている公園、いろいろなタイプの公園、緑地を見ながら、あらためて、柏の魅力を感じつつ素朴な街にしたいと思った。市民懇談会発足後、すぐにこの視察が持たれた方がもっと良かったのでは。 緑の保護地区や緑の広場に指定されながら、開発されてしまった事例もあってよかったのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> 荒廃を防ぐため、維持管理が保有者だけの負担にならないような、地主・市民・行政が役割と費用を分担しながら、監視して行くシステムの構築と導入。 相続発生時を予測したならんかの手立て 市民債券の導入 	<ul style="list-style-type: none"> 市街地から離れた所に位置し広い面積を持った公園(手賀の丘公園、あけぼの山公園など)、市街地のど真ん中にあり、日常の市民生活に供する公園(中原ふれあい防災公園 大堀川リバーサイドパーク)、豊かな生態系を持ち自然観察などに給する緑地(高田野鳥公園 酒井根下田の森)など、公園緑地の持つ機能と使われ方を考えながら、地域のバランスよい配置が必要だと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 開発の中で、提供される緑地の少しでも増やす工夫 既存の樹木を伐採しない工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 不特定多数の市民が、単発的にでも緑地や公園の維持管理に参加できるようなことが必要。みどりの保全には、維持管理の継続的なシステムが不可欠だが、その中に、不特定の市民が単発的に参加したり、学習できる工夫があると良いのでは。身を持って体験する機会を多くつくるのが、重要。(例 クリーンデイをもう一工夫するとか、緑の維持管理する市民団体に呼びかけ一定の助成をするなど) 	
<ul style="list-style-type: none"> あけぼの山公園—桜、チューリップ、ヒマワリ、コスモス等県下の名勝になった。 緑と公園について改めて認識を深めた。現在残されている場所は財政・資金面で課題はあるが是非保存されることを期待し充実してほしい。 大変よかった 	<ul style="list-style-type: none"> 特に農地については自給自足、食料確保のため、農地が維持できる政策が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民の憩いの場、健康づくり、いやし等の場として充実してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> まち中は困難なケースが多いが、可能な限り工夫をして緑化を。 	<ul style="list-style-type: none"> 緑の効果・機能をあらゆる機会を通してPR 	<ul style="list-style-type: none"> 沼南地区の現況も多少わかり勉強になった。
<ul style="list-style-type: none"> 手賀の丘公園—はじめて来たが、素晴らしい公園で感激した。家族にも紹介したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ゴミの不法投棄 	<ul style="list-style-type: none"> メダカ等、子どもたちが喜ぶ動植物に接することができる公園 	<ul style="list-style-type: none"> ケヤキ、スズカケ、桜など、松葉のバス通りは素晴らしいが木 	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと協議会で手賀の丘公園、中原ふれあい防災公 	

1. 本日の視察で印象に残った場所や視察の感想について	2. これまでの市民懇談会を踏まえ、今後の柏市の緑のまちづくりで考えていくことが必要であると思われることについてお書きください。				
	樹林地や農地などの保全について	公園について	街並みの緑化について	緑に関する意識啓発など	その他
<ul style="list-style-type: none"> はじめての場所は1箇所であったが緑の観点で見るとおもしろい。 中原ふれあい防災公園—憩いの場となる公園と緊急時の機能を備えた防災公園が印象的。今後の公園のあり方を考えさせられた。 視察によって自分の地域ではない緑資源が把握できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 旧沼南地区と旧柏地区では今後の方向付けが異なると思われる。 樹林地の不法投棄や管理 鎮守の森を大切にしていきたいための施策 	<ul style="list-style-type: none"> 今後つくるのは大型公園でない公園をつくる方が望ましい。 自然、憩いの場そして管理(手入れが行き届いていないと公園とはいえない) 現存の緑、水辺地をいやすとしての公園にできないか(大規模でなくてもよい) 大規模として考えるのであれば防災公園が各地域に必要。 	<ul style="list-style-type: none"> の根っこが張りすぎ歩道がでこぼこの状態 公園並み(常盤平)のものをつくるのが望ましい。 街路樹が植えられた整備(道路)についての配慮 年々減少していく緑 	<ul style="list-style-type: none"> 園、酒井根下田の森などの見学会を企画したい。 一人ひとりが緑に対して気付き、大切にすることを意識させる。 子ども(小学生)の頃から自然とかかわる場を増やす(植樹等) 	<ul style="list-style-type: none"> 緑を守るにはボランティア団体・活動が不可欠という実態を知った。
<ul style="list-style-type: none"> 酒井根下田の森 高田野鳥公園 	<ul style="list-style-type: none"> 行政だけでなく住民も一丸となって考えなければと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 都市部にはお金がかかった素晴らしい公園が多くあることがわかった。それを維持する行政も大変。 住民も維持管理について考えるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 都市部と農村部は異なるが都市化するほど地区住民も考えなければならぬと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 先祖の代より純農村地帯に住む者としてはとても難しい問題であると思う。 	
<ul style="list-style-type: none"> 柏ビレジ水辺公園—住宅の近くでよいと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> 樹林地を他の市民が利用できる緑地として開放する。 農地を市民が利用できる農園などとして開放する。 	<ul style="list-style-type: none"> 行政が管理するものではなく市民や事業者が所有し管理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 騒音をやわらげる 個性やゆるいのある景観 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然として人間だけでなく動植物の生態系を支える基盤として、大気の浄化、生活にやすらぎを与え、レクリエーションの場 	<ul style="list-style-type: none">
<ul style="list-style-type: none"> 酒井根下田の森 柏ビレジ水辺公園 	<ul style="list-style-type: none"> 相続がらみで売却される恐れがあり市民一人ひとりに啓発し1坪オーナー、公債の発行などの検討も必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災公園をとりにれた公園の整備が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 役所まかせでなく住民も協働で緑化していく姿勢が望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今回のような視察を市民レベルで実施してはどうか。PRも兼ねて 	<ul style="list-style-type: none"> 市内の緑のウォッチングを2・3回実施してから懇談会を開いた方が問題提起、改善など多くの意見が出るのではないかと考えた。
<ul style="list-style-type: none"> 宅地開発に対して行政の意向が大きく反映されてきていると思うがまだ手ぬるいと思う。 売地がますます細くなり緑地面積が家の周囲に一線程度のもので不十分である。視察した場所でも課題が山積しているようで今後このままの状態が続けられるのかどうか心配になった。 	<ul style="list-style-type: none"> 休耕田の利用を考える(緑地としての管理) 地権者とのパイプ役を行政が果たすことで市民管理の道が可能となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 芝、ベンチ、水道のある公園は不要で樹木のある公園づくりを目指してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 電線との調和が必要と思うが並木道をつくるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会等を通じた自然に対するイベントを企画・実施し住民(子供会)の意識を「緑に参加」させる運動を(親子三代運動会は不要) 	<ul style="list-style-type: none"> 落ち葉をゴミとする意識が出てきているが、この辺から緑を不要とする意識が出てきているのでは(落ち葉に限り焼くことを認めるべき)
<ul style="list-style-type: none"> 今回見学した施設はそれぞれ特色があり素晴らしい。 特に柏ビレジ水辺公園—地盤沈下が生じていること、湖水周辺に樹木の広がりが多い。散策し体を動かし憩う広場が多い。民間開発に伴う調整池を目的としていることが残念。 	<ul style="list-style-type: none"> 樹林地等がどうしたら残せるのか。単に相続税を軽減すればということばかりでなく専門家の意見をききたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 経費をかけて石張りしたり、いろいろな施設をつくり高価な樹木を植栽した公園は大名家の庭園を思い出す。 柏の2・3百年続いている寺社の境内林が相当残っているのその保全を真剣に考えるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 最近、街路樹が相当整備されてきて結構なことだと思うが手入れされてないところも多いように思う。信号が見にくいところも散見された。 	<ul style="list-style-type: none"> 緑に関する市民の意識は相当高まっている。意識啓発の段階を超えて保全への市民の参加が可能な措置を考えるべき。理念から実践の段階である。 	<ul style="list-style-type: none"> 「里山を守る会」の一員として、①山林・農地・空地等にゴミや廃棄物が投棄されていること②山林の下草刈り等において野焼きができないこと、が困っている。緑を守る一環として取り上げてほしい重要なことであると思う。
<ul style="list-style-type: none"> 全体的に整備された地域であったので次回は是非市内山林の問題地を視察したい。 東急タウンの貯水池が周辺の森林のバランスが大変良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 農地の特例並みの税の優遇措置の実現 樹林地・農地の経済的価値の数値化 	<ul style="list-style-type: none"> 宅地開発等により決まった公園づくりではなく必要な地域に大型の自然公園づくりを望む。 落ち葉、雑草が十分にあり昆虫・小動物等も棲んでいる自然公園 夏場の除草、手入れは従来よりも期間をあけても良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 街路樹、生垣などの樹木の統一化を図る。 街路樹はもう少し自由にさせるべきか、剪定のしすぎか。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然の大切さを啓発する以前に自然を粗末にしない。 不法投棄等、自然破壊につながる行為の取り締まり 	<ul style="list-style-type: none"> 里山文化の育成、里山はほどほどに手入れして樹木があることに不便を感じながら緑との共生を図る。
<ul style="list-style-type: none"> 緑を意識しながら柏市を全体的に見るのははじめてであったので大変勉強になった。 酒井根下田の森—1.7haと小さい緑地であるが酒井根の一 	<ul style="list-style-type: none"> 農家の高齢化があるので農地の保全は難しいが乱開発の防止はできる。「手賀の杜」は緑の保護という面を考えたとき、どれ 	<ul style="list-style-type: none"> 少しでも広い公園をたくさんつくる。公園には芝生を植える。 CO2を削減するためにも上はコンクリ 	<ul style="list-style-type: none"> 新しくできるまちはほとんどが街路樹を植えているが基準値ぎりぎりである。特に公共の場に植 	<ul style="list-style-type: none"> 柏市でも屋上緑化を働きかけてもよいのではないかと。リフレッシュラザの屋上部分 	<ul style="list-style-type: none"> 大堀川と大津川のきれいな水があるが、きれいであれば捨てたい

1. 本日の視察で印象に残った場所や視察の感想について	2. これまでの市民懇談会を踏まえ、今後の柏市の緑のまちづくりで考えていくことが必要であると思われることについてお書きください。				
	樹林地や農地などの保全について	公園について	街並みの緑化について	緑に関する意識啓発など	その他
<p>角によく残ったものだと感心した。あのような場所がもっと広くほしい。本来手賀地区などは地主がしっかりと手入れ管理できればたくさんの緑が荒れることなく残せるであろうが手賀地区では荒れた休耕地が多く見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 公園には芝生が少なかった。芝生は樹木の保護には大切であるので、補植やマルチング、芝生で樹木を保護することが必要である。 今回の視察は柏の良い所、モデル地区であったが、市として困っている場所を市民の目で見ること良いのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ほど緑が犠牲になったことか。地球温暖化防止に協力する緑地や樹林には税の軽減や免除も必要ではないかな。NPO や里山のボランティアの力を借りるだけでは限界がある。しっかりと労働力の確保と予算化が必要である。 	<p>ート化せず芝生を植えるべきである。中原ふれあい防災公園、柏リフレッシュ公園、大堀川リバーサイドパークなどは芝生が良く管理されていた。日本芝が丈夫で良い。学校なども校庭を芝生化しているが地球温暖化防止の視点からも緑化は絶対に必要である。その点からも公園の持つ役割は大きい。</p>	<p>えられた樹木の管理は苦情ばかり寄せられるが、緑を守る立場のものは平気で管理していかなければならぬ。やがては人にかえってくることを確信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 街路樹は、下枝があまりでないもの、根が道路を傷めないもの、風に弱いもの、などの工夫が必要である。また電線を地下に埋設することが樹木にとって良い。 	<p>の緑化は貧弱であったが低木常緑の花木などを工夫してアピールしてはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> イベントや内容の充実を期待したい。学校への緑に関する出前授業の宣伝も効果がある。東大にも協力してもらってはどうか。啓発のパンフレットなどがあるとさらに効果があると思う。 	<p>ゴミも持ち帰る、みんなが大堀川に関心を持つとゴミは減る、人々が気持ち良くすれば自然を大切にできるであろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> そこまでレールを敷くことが私たちの仕事である。
<ul style="list-style-type: none"> 染井入浴に沿った斜面林、手賀沼に沿った斜面林は残しておきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 樹林地や農地を市有地として買い上げができれば問題はないが現在の財政状況では困難である。民有地を緑地や公園として保全しても相続が発生すると手の打ちようがない。これを解決しないと計画倒れになりかねない。最も困難な問題である。 	<ul style="list-style-type: none"> こんぶくろ池や増尾城址公園は広域公園として大きな意味を持っている。旧沼南地区も手賀の丘公園のほかにもう1箇所くらい水辺のある総合公園がほしい。今後開発が進むと難しくなる。今がチャンスではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 市街地については街並みに緑化を進めたい。あまり大きな計画でなくてもできるところから、できるだけ緑化で良いのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民に対する啓発は是非とも必要である。まずは「広報かしわ」に柏の緑という欄をつくり毎月市民にアピールするのも良い。 環境ステーションも毎月連載することで市民からの問い合わせや参加も多くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 緑を増やすことはCO2の削減にもつながり地球温暖化防止に対する市民の意識の高まりとともに緑に対する意識も高揚してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> 柏ビレジ水辺公園—こんなにすばらしい池があるのに釣りができないのは子どもたちはつらいのではないかな。休日ここに来る人は何をしているのか。大雨のときの水対策はポンプか。 	<ul style="list-style-type: none"> 最近桜の植樹はあるが他の樹木はどうか。 道路わきのポイ捨てが多い。雑木林の下草刈りが必要である。 使用していない農地は市民に使用してもらうことも考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 犬を公園に入れられない方法を考えたい。大きな公園であれば一角を専用にする。 公園の砂場の消毒・交換が必要である。 大人も子どももゆったりとした気分で過ごす公園、花壇をつくり、実のなる樹木、気分をさわやかにする樹木をつくる。 町会にある公園をボランティアを募り管理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 落葉樹よりも常緑樹植える。サクラ、カエデ類、イチヨウなどは時期的に喜ばれるが秋から冬にかけては掃除が大変である。地球温暖化防止のためにも一年中CO2を取ってくれる常緑樹を植えるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 住宅などを建てる確認申請のときに、緑を残す、自然を壊さない、景観を考えるとこのことを指導する。 南部公園で花壇づくりを行っているが公園やまちなかを通るときにどのような木や花があるか見て参考にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年から緑の基金でプランターなどの無料サービスが開始されたが近隣センターに資料をお願いしているが公園やまちなかを通るときにどのような木や花があるか見て参考にしてほしい。 生垣の補助はこれまで何件くらいあったのか。
<ul style="list-style-type: none"> 柏市において年々山林、田畑は減少し宅地が増加していることが見学して実感した。 緑地については計画の中で位置づけ・ランクづけし、特徴や所有者、管理者、管理状況について現状と目標などをマップに落とし込んでいくとわかりやすいのではないかな。 計画の内容について市民に積極的に情報提供し関心や興味をそそり市民との協働による計画の実現が望ましい 手賀沼周辺の広大な自然は課題が多いようであるが知恵を出し合ってよい管理をし保全したい。 計画の実施状況は年次報告(白書)を作成し随時計画の見直しが必要ではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 樹林地の保全 ①維持管理マンパワー 森林学講座を開催し森林管理ボランティアを養成し維持管理を市民と協働で行う(きれいにし多くの人の目が届くことでゴミの不法投棄防止)②維持管理経費 農地の保全 ③高齢化、後継者問題、休耕地の利用 サラリーマンをリタイヤした人や転職者などに農業講座を実施し農業従事者を募る。農業後継者養成(千葉県農業大学校、同大学研修科)、小学生や市民に体験農場として提供。(低農薬、有機栽培を推奨。地産池消として給食食材に。生産者と消費者の顔の見える農産品の直売・宅配)④相続税と樹林地・農地の保全 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者や幼児に優しい公園(街区公園・近隣公園)整備 木陰用樹木、ベンチ、トイレ、水道を備える。すべての公園のトイレを障害者も利用できるものに。 	<ul style="list-style-type: none"> 屋上や壁面緑化の推進、奨励 計画的な宅地造成と街並み自主規制 自然を破壊して宅地造成しても計画的に植栽し公園や水辺をつくることで松葉町、柏の葉、柏ビレジのように数十年たつと緑量かで落ち着いた街並みになることを実感した。(破壊した自然は戻ってこないが) 	<ul style="list-style-type: none"> 計画の内容について広報紙やかしわシテネット等を使って市民に積極的に情報提供し関心や興味をもってもらい市民との協働による緑の保全・計画の実施をすすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ①線に関して貢献した市民を顕彰する制度 ②リフレッシュプラザ柏について建物内の植物は必要なのか。屋外の公園の植樹は少ない。最上階のプロア緑化のCO2削減効果は、イニシャルコスト・ランニングコストの費用対効果は(事業(ハード・ソフト)の計画段階からの市民参加を)
<ul style="list-style-type: none"> 柏市の骨格の緑の形成、その中で開発に対する指導・誘導は更に強化することが大切である。 特に拠点の緑については、柏市が早急に地域特性・生態系・自然植生等に配慮した樹林等の保全・復元・整備の具体的な施策を提示し、所有者・市民・行政が一体となって取り組めるように進めるべき。 その具体例として、酒井根下田の森緑地は、酒井根下田自然拠点の30%(1.7ha)を都市公園法に基づく都市緑地として都市計画決定しているにすぎない。柏市南西部の市街地に唯一奇跡的に残った緑のダムとも言える、里山の原風景をとどめる景観・古民家・極相樹林・200m余の野馬堀・豊 	<ul style="list-style-type: none"> 山林管理支援制度・生産緑地・納税猶予等を積極的に活用する。 収益林としている場合を除き、自然植生に十分配慮した保全・管理とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然植生・樹種の特性を活かした選定をし、剪定等の費用負担を多少でも減らすようにする。 樹種は偏ったものとならぬよう、積極的に多様化を進める(ソメイヨシノだけがサクラではない)。 犬などのペット専用公園の指定をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 緑化協定締結のハードルを下げる検討もしながら、住宅地の緑化協定地域を広げる。 生垣の積極的な奨励(税の一部減免、又は補助金の検討)。 全所的な雨水浸透樹の設置(同上)。 保護樹林樹木の指定は、長期的展望と特性等を重視して行う。 公共施設、特に学校の樹林に 	<ul style="list-style-type: none"> 市報を積極的に活用し、継続的発信に努める。 緑陰・落葉・それらの除去処分等は人に害を与えるだけでなく、サイクルの一環として必要不可欠であることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ナショナルトラストなど、市民が取り組める緑の保全の具体策についても提示し、必要に応じては支援する。 市民債の活用を具体的に・重点的・戦略的に研究検討し、実施する。 市民に解り易く取り組みやすい「ふるさとの森づくり作戦」を展開する(参考)

1. 本日の視察で印象に残った場所や 視察の感想について	2. これまでの市民懇談会を踏まえ、今後の柏市の緑のまちづくりで考えていくことが必要であると思われることについてお書きください。				
	樹林地や農地などの保全について	公園について	街並みの緑化について	緑に関する意識啓発など	その他
<p>富な湧水群・フクロウ・カワセミ・ヘイケボタル・オニヤンマ・サワガニ・カントウタンボコの群落など棲息する動植物の多様性でも貴重なこの自然拠点全域を、所有者の理解の下に、都市公園法・都市緑地保全法・生産緑地法等を駆使し、自然の博物館として恒久的に保全・整備すべく、早急に具体的施策を講ずるべき。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次の具体例として、中原ふれあい防災公園隣接の樹林については、防災上も公園の緑と一体となるよう公有地化することが必要である。そのための施策の一例として、長期償還の市民債の活用と市民有志を発起人とするトラストの組み合わせ施策を検討すべき。 			<p>よる緑化を先導的・積極的に進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 社寺、私学、事業所等と緑化協定を締結し、緑化を義務づける。 		<p>例 宮脇昭氏の提唱する鎮守の森にみるドングリの森づくり。</p>

柏市緑の基本計画策定市民懇談会 意見シートまとめ—3(第4回懇談会時に配布)

1. 柏市の緑の将来像として望む姿、目標などについて、ご意見がありましたらお書きください。 (目指すべき将来の方向、キーワード、キャッチフレーズなど)	2. 今年度の市民懇談会の感想などをお書きください。	3. 来年度の市民懇談会に望むことなどについて、お書きください。
<ul style="list-style-type: none"> 緑の広がり…緑を点から線へ、線から面へ 柏の緑はまだ拠点点が点である。拠点から面へ広げる工夫が大事である。 今がチャンス1…二酸化炭素問題、洞爺湖サミット、京都議定書、排ガス規制、地球温暖化、絶滅危惧種、北京オリンピック(大気汚染)、農薬入り餃子など、危機感を感じる。「安心・安全は緑から」と、国民の関心も出てきている。市でもパンフレットをつくれると良い。 今がチャンス2…中核市となるとき、柏市は何が変わるのか。「緑の発信市、柏」としてのキャッチフレーズが大切。予算を獲得。市民の意識化。 今のままでは、緑地30%(H32)確保は達成できない。「中核市になったら緑が増えます」というお知らせはどこにもない。ハード面・ソフト面のことと共通する。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加できて良かった。…柏に住んで長い「緑」というテーマでこれほど街を考えたことはなかった。たくさんの知識を持った人と話しができたことも良かった。 意見が聞いてもらえた。…公園緑政課がどんな発言にも真剣に真摯に聞いてくれた。疑問にも的確な回答が出されていた。意見シートのまとめや会の進行もすばらしかった。 良いところだけでなく、…視察は良かったが良いところだけはない。困っているところははっきり出してもらえると新しい解決策が出るかもしれない。 今年度の市民の意見がどれだけ採用され活用され緑の街づくりに役立つか。一蹴しないようにしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「中核市になったらこんなに緑化が進んだよ」と言える街にしたい。市民の緑への意識が具体化されるシステムを市民に報告できるとうれしい。 障害者・高齢者が緑に心とめさせられる場があると良い。ひとつにはそのような公的施設の緑化も兼ねての働きかけであろう。 公設市場の跡地利用は図書館、ミュージアム、公園などに利用できると良い。
<ul style="list-style-type: none"> つくっていく緑、育んでいく緑、守っていく緑をバランスをとり工夫して取り組んでいく。 守る(保全)には地域の力が必要なので緑に対する意識を高める意味でも積極的に森林講座(各近隣センター)などを設けていくことは必要ではないか。 どういう緑を守るのか、貴重だから守るのか、貴重にならないように残すのか、今一度考えてみたい。量か質を守るのか。 土地所有者の緑地の管理が不十分である。何か良い管理対策はないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 4回参加した。 緑をあらゆる角度から考えたことは今までなかったので勉強になった。緑から柏市をみたこともなかった。 参加者が知識・経験が豊富なので参加するだけでも良い刺激になる。 自分の地域だけでなく他の地域の性格もわかり有意義であった。 	<ul style="list-style-type: none"> より具体性がでると思われる。北部地域をもっと自分の目で見て感じたいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> 沼南地域における「田園都市構想」は是非実現したい。 手賀のふるさと協議会会長の話しの中で、小学校入学4人、全校生70人とあり非常に驚いた。緑の保全と住宅誘致による住民の増をうまく回りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 北部は緑が多いが、「利根川の土壌と農地との緑」「大青田の森と小青田と運河の堤防の間の緑「根戸エリア」等まだまだ守るべき、あるいは創るべきところがあると再認識した。 	<ul style="list-style-type: none"> 保全の優先順位づけをし確実に担保していけるよう提言する。
<ul style="list-style-type: none"> 現存する緑地を維持する方向を望む。地権者の保存に対する優遇措置として市独自の対策を探さないか。現に実施している県や国の対策は現実的に進んでいないのが現状で小規模までの対策を講じなければ緑地減少は止まらない。地権者が土地を手放したくなるような施策がまかり通っている。相続は当然のことで不労所得的に考えるべきではない。緑地として残存する限りは相続税を延納または免除するなどの特例も必要であろう。 最大のキーワードは相続税の軽減(支払い可能な税率) 	<ul style="list-style-type: none"> 合同の場での懇談会で参加者の意見を聞くことができた。地区別の意見もまとめられ様々な意見があること、様々な活動者と意見交換ができ有意義であった。 緑地保全への思いがともすると自分だけが意見となる場合もあり意見を戦わせる中で理解が生まれることもあり参加して良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画の中での都市公園と都市緑地とのバランスをどうとっていくのか、案があれば説明を受け、意見交換してみたい。
<ul style="list-style-type: none"> 緑の将来像 発想の転換で思い切った施策を 全国的にアピールできる見本として市役所を緑化する。シンボルとなるカシワの大木を植え建物のまわりを緑で囲む。駐車場のまわりも高木を植える。樹木は昔から自生している樹が望ましい。 柏駅東口商店街も一方通行にして街路樹のスペースを確保する。 家庭でも1本でも2本でも小さな樹でも植えることを奨励する。 小中学校の卒業式に1本ずつ渡す。 	<ul style="list-style-type: none"> 出席者に自由に発言させると条例や規則に関係ない意見を述べるのでとりまとめが難しくなる。学識経験者や関係者が案をつくり出席者がたたいてまとめの方が良いのではないか。 いくら優れた緑地政策を立案しても市が買収できない限り相続問題が発生すると対応する手段がない。相続問題は今回の検討しても答えの出るものではなく、柏市だけの問題でもない。各市・各県と協議する組織で検討しこの会では検討をやめてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 緑の将来計画を話し合っているが緑がどんどん少なくなっていくという悲観的な話が多い。来年度はもっと明るくなる前向きな話し合いをしたい。 3月に成立する予定の「地球温暖化対策計画」には森林整備として人工林 311ha、天然林 741haの確保があり都市緑化として公共公益施設における高木植栽3万本が計画されている。これが実施されると4,564tの二酸化炭素が削減されることになる。この計画について検討し緑地と二酸化炭素削減を同時に達成したい。
<ul style="list-style-type: none"> 参加者の意見は将来像や目標など哲学的・神学的意見よりも現実の今ある緑をどう保全するかなど具体的な保全策に関心が多くあったように思う。今ある緑をどう保全するか、ただちに着手すべき。 宅地開発や区画整理事業への対応、各種公共事業実施の際の対応、農林業振興策の一環としての対応、税制上の対応など行政各般にわたり具体的施策を一刻も早く講じてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画を地域ごとに分けることにどれほどの意味があるのか考える必要がある。広域行政が叫ばれて久しい柏市も中核市に指定され、今日ではグローバル化がいわれている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年7月には洞爺湖サミットが開催され最大のテーマは地球環境問題であり二酸化炭素削減問題である。基本計画もこのような観点からの位置づけをしても良いのではないか。

1. 柏市の緑の将来像として望む姿、目標などについて、ご意見がありましたらお書きください。 (目指すべき将来の方向、キーワード、キャッチフレーズなど)	2. 今年度の市民懇談会の感想などをお書きください。	3. 来年度の市民懇談会に望むことなどについて、お書きください。
<ul style="list-style-type: none"> 各地域のグループワークのまとめを参考に「柏百景」を選定し百景めぐりを実施し(百景ラリー)、全部終了したらポイントする。それをためて緑の保全に利用する。途中ではゴミ拾い、球根の配布などを入れる。 市民だけでなく企業にも緑の保全について協力をしてもらいたい。市民債も必要である。 農地・休耕田を活用し農家の人の指導で新しいビジネスを行う。 新規住宅地開発には今の規定では少なすぎる。柏独自の数値を出してもらうほかに応分の費用も業者に負担させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 視察したうえで懇談会ができて良かった。 各地域の特性も理解できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民懇談会には是非企業の方の参加を。 みどりの基金との懇談会どうか。
<ul style="list-style-type: none"> 豊かな緑で美しい街づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者が緑に関心が深く有意義な会議である。 緑に関して再認識させられた。 	<ul style="list-style-type: none"> 市の緑、公園関係の施策の情報開示(H20年度の事業計画、予算)し、説明してもらいたい。 会議の時間帯について厳守してほしい。中退、退席しづらい。 ふるさと協議会、地区社会福祉協議会等に活動費として助成金が交付されているが別途緑の活動のみに使用を明示して補助金を出し広く関係者に働いてもらってはどうか。
<ul style="list-style-type: none"> 大きな公園はもう不要である。高齢化社会を迎えるにあたり身近に親しめる緑を望む。 温暖化防止、水を蓄え、空気をきれいにし、心を和ます、など、私たちのまちを守ってくれる緑は地域の宝、柏市の宝である。 民有地を守るための支援制度として緑の広場、市民緑地、緑の保護地区があるが永続性がない。これらについてはあらゆる手段を考え市が買い取る方向性を示す。 行政・地域住民がみんなできかわりあっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 会の進め方、まとめ方考えの整理がしやすく良かったが話し合う時間が足りなかった。 一般公募は各地域2名で責任の重さを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 開発等により緑が減少するのは仕方がないとは思わない。柏市の緑が次々と姿を消していく現状を踏まえその問題点を出し合い、その具体的な解決策を時間をかけて話し合ってもらいたい。 都市計画、都市景観計画、環境基本計画、緑の基本計画など、それぞれに話し合われているが重なる部分があるのではないかと感じる。他の計画ではどのようなことが話し合われているのか聞きたい。 2/1の広報に掲載された都市景観計画策定は緑の基本計画とすり合わせた結果なのか。
<ul style="list-style-type: none"> 緑と花のある街 柏 緑豊かな街 柏 しかし緑を多く残したくても建売住宅などによりどんどん減っていく。地主などへの税金対策などが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加して大変参考になった。 柏の緑が減っていくのが意見から良く分かった。 現地見学はこれからの話し合いで参考になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 樹木・樹林について(樹林地内にゴミが散乱) 公園緑地、公共の緑などについて(マナーが悪い) 南部には緑が多くあるが人が入れない場所が多い。夏、子どもたちが虫を採りに行くが入れない。 下草のボランティアを募集しても集まらない 地主も高齢者ばかりで難しい。予算もなく難しい)
<ul style="list-style-type: none"> 都市近郊には比較的豊かな水と緑の資源を市の地形的特性をいかにしながら維持創生し市民が憩い誇れるものにしていく。 利根運河流域や沼南地区等に残る生物多様性を含む広大な樹林地を(隣接市との広域緑地としての意義を含め)土地利用規制や重点拠点の公有地化等を通じて将来にわたって確実に保全する。 温暖化やヒートアイランドの防止に役立つ緑と水資源を一体とらえ水域の自然性を保持・再生しながら水と緑の回廊を巡らせる。特に手賀沼とその流入河川周辺には広大な農地・草地を保全しつつ緑豊かな植樹帯を造成する。 市街地には拠点となる緑をしっかりと整備する。市民の共通理解が得られる重点拠点については市民債等市民みずからの資金も活用して地権者をサポートする。 安心・安全のニーズに応え魅力ある近郊農業と地産地消を振興し農地を保全する。 公的な施設開発を行う場合はそれにより失われる緑地相当分は必ず市域内にリカバーする。 市民が参加しやすいよう緑化活動を工夫したり余分に出した二酸化炭素は緑で補うカーボンオフセットの考え方を広めたりして市民が何らかの形で緑の保全育成に参加し支えあう。 目標:緑被地率50%以上確保(水面を除く) キーワード:温暖化防止、カーボンオフセット、生物多様性、共助 	<ul style="list-style-type: none"> 緑地保全の活動をしている人の体験を踏まえた意見を聞いて勉強になった。 地域ごとの検討会がほとんどであったが、柏市全体を眺めて考え意見交換することも大切である。 地権者の本音があまり出ていなかったように感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後市民懇談会でまとめていくべき事項を明確にしてほしい。 柏市全体についての意見交換の機会を増やしてほしい。 優れた都市緑化の事例や専門家の問題提起のようなものを材料にして柏の未来を検討してはどうか。 新開発地帯の緑化、並木づくり、基金の強化などのテーマを掘り下げてみてはどうか。

1. 柏市の緑の将来像として望む姿、目標などについて、ご意見がありましたらお書きください。 (目指すべき将来の方向、キーワード、キャッチフレーズなど)	2. 今年度の市民懇談会の感想などをお書きください。	3. 来年度の市民懇談会に望むことなどについて、お書きください。
<ul style="list-style-type: none"> 特に現行の基本計画における「拠点の緑」を整備保全することに全力をあげるものとし、整備と保全の手法、地域住民・団体を巻き込んだ維持管理システムにも言及した新計画とする。 守ろうみんなで拠点のみどり 沼南地区については手賀の丘公園の拡大・神明社の森を含む塚崎運動公園を整備保全する新計画とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 委員の意見を集約するためには意見交換の場、発表の場の時間が少し足りなかったように思う。 委員の意見の客観性確保についても少し工夫をしても良かったのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> 委員の発言、発表前の条件設定、持ち時間を同一にすることなどについても検討を望む。
<p>将来像</p> <ul style="list-style-type: none"> みどりと共生するまち(都市の利便性と自然が共存して自然の恩恵を受けながらその不便さも受容するまち) みどりを媒体として地域から地球に思いをはせるまち 地権者・市民・行政が協働するまち <p>基本計画に盛り込むこと</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体性と実現の可能性を高めるとともに、市民にわかりやすいものにした。 骨格のみどり:手賀沼・大堀川・大津川・利根運河周辺の広大な骨格のみどりについては調整区域がほとんどであることから斜面林や農地の保全について開発規制をより厳しくするなど庁内を横断して対策や仕組みをつくる必要がある。保全に向けての可能な限りの具体策を盛り込むべき。 拠点のみどり:現計画では拠点の位置の範囲、土地の種類・保有の形態などについては触れられていない。 <ul style="list-style-type: none"> ○対象地区の現状把握 <ol style="list-style-type: none"> 拠点の範囲の具体的設定 種類(農地・水辺・樹林地・草地・グラウンド・建物緑化等) 法令上の位置づけ(公園・特別緑地保全地区・市民緑地・緑の広場・みどりの保護地区等) 所有の形態(公有地・学校法人・個人等) 特徴や特性 ○今後の方向性:それぞれの拠点の特性・役割や利用のあり方・保有の形態・維持管理の方向性 ○拠点の中で優先度をつける基準づくり:生物多様性や生態系・防災機能・景観・柏の原風景・周辺地の人工密集度・市民の思い(トラストの有無)などの基準づくり ○優先度に基づき3～5年単位の重点地区の設定 農地・樹林地の保全・維持・管理の仕組みの構築:骨格のみどり拠点のみどりを問わず地権者・市民・行政が保全に向けて協働する仕組みづくり。地権者とかわる市民双方の多様なニーズに対応できる総合的なシステムの構築が求められる。既存のNPOへの橋渡し新規団体立ち上げへの誘導や支援なども含めて行政がコーディネートする機能も果たしながら協働が機能するトータルな仕組みづくりを具体的に提示することが必要。 恒久的な保全のための財源計画、市民債の導入、みどりの基金への寄付のあり方の検討(特定のみどり保全への寄付ポケットをつくるなど) 	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の意見シートの記入は気が重いが他の参加者の考え方に気付かされたり、会議の中で立場の異なる参加者の違う意見が聞けて有意義であった。 地域別ワークショップの時間がもう少し長ければもっと見えてくるものがあつたのではないかと。 ワークショップの課題設定が具体的であった方が焦点がしぼりやすいのではないかと。今の会議で何を話し合い次の会議にどのようにつながるのか、策定委員会とどの部分が関連するのかがわかりにくかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップの時間を十分に取りたい。 話し合う課題の設定を具体的に。 資料は事前に郵送してほしい
<ul style="list-style-type: none"> 現在の緑を倍増する方向 沼南地域では「緑との共生」。特に小学1年生が4名という現状を解決できる行政的手法を早期検討すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 相続に関する市としての対応。補助の内容、特例扱いの手法等(現状を知りたい) 今後の市としての対応策の考え等を知りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京都の緑の倍増5ヵ年計画、松戸市のみどりと花の課の動き等を参考に計画を進めてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> 沼南では相続のたびに森がなくなっている。また緑が豊か＝過疎となっているので緑を残し人も増える施策を。 人手が入らず荒れている森が多数あるので地主と協働で整備をし、話し合っ一般の人が利用できるような森の確保を。 キャッチフレーズ:「人と緑が共存できる街づくり」 	<ul style="list-style-type: none"> 旧柏市の現状が良く分かった。(どこも相続問題に頭を悩ませていることも) 	<ul style="list-style-type: none"> 夢のような基本計画ではなく地に足のついた計画にするための話し合いを。

1. 柏市の緑の将来像として望む姿、目標などについて、ご意見がありましたらお書きください。 (目指すべき将来の方向、キーワード、キャッチフレーズなど)	2. 今年度の市民懇談会の感想などをお書きください。	3. 来年度の市民懇談会に望むことなどについて、お書きください。
<ul style="list-style-type: none"> 緑の保存・緑化は地域によってその意義が正反対になることもあるが生物にとって欠くことのできない方向性である。このことを市民にPRし必要性を説く努力が肝要である。今回のアンケート調査結果も機会をみて市民に知らしめることにより理解され、また活動の推進に寄与すると考えられる。 キーワード:「市民が作る緑化の波・羽ばたく憩いの波」 	<ul style="list-style-type: none"> 各メンバーの意見を取り入れる姿勢がみられ参加して緑の大切さが共有できたことに意義がある。 アンケート結果をみて感じたことは、地域の現況にあった意見・その思いがあり、各地区の市民も基本的に保存・緑化活動に賛同し生態系にとって大切であること、利用度については地域が職・住近接かそうでないかの違いがみられ、中央地域などは商業化されている現状から各方法による緑化活動が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域別会議:担当地域と他の地域との1対1の意見交換をしおのおのの思い・問題点など共通することを確認しあう。 視察:意見交換で保存したい場所の現況をみて生態系の価値観を考える。所有者と面談し緑化に帰する歴史・苦労話などを聞きメンバーが共有する。 緑化:市民に意味・方法などを具体的に示す努力が必要。